平成 30 年度

九州共立大学

# 地域連携推進センター 報告書

令和 元 年 6 月

地域連携推進センター

# 九州共立大学　地域連携推進センター報告書に寄せて

地域連携推進センター
所長　　篠　原　純　司

日頃より九州共立大学地域連携推進センターの活動にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。おかげさまを持ちまして、平成30年度の活動を無事に終えることができました。平成30年度は、新たに、芦屋町、遠賀信用金庫、大和証券と連携協定を締結し、9つの自治体および企業と連携事業プランの作成および実施をさせていただきました。また、本学では、次年度より地域経済の活性化、地域に根差したビジネスの創造、地域振興や安心・安全なまちづくりを担う人材を養成するため、経済学部に地域創造学科、スポーツ学部スポーツ学科に地域政策コースを新設いたします。これらの教育カリキュラムでは、地域での実践活動を重視し、自らの体験を通して学んだ地域の諸問題とその解決方法について考察する課題解決型の授業を数多く実施していく予定です。地域連携推進センターでは、このような学内教育カリキュラムとも連携を密に取りながら、地域の皆様と共に、様々な地域課題に取り組む体制をより一層強化していきたいと考えております。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 地域連携推進センターについて

## ○目的

平成６年に設置した「生涯学習研究センター」は、地域における生涯学習社会の実現を図ることを目的とし、大学を地域社会に開放する際の触媒的な機能として、ここを拠点とした社会人や地域住民並びに学生に対する多様な学習の提供と、生涯学習に関する研究の推進を展開してきたところであるが、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては「地域連携・地域貢献」の拠点（中核）となることがこれまで以上に強く求められており、大学全体で組織化された地域との連携協働体制の構築が喫緊の課題となっている。

このことから、本学においては上述の「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人財を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人財育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とする。

## ○業務内容

(1)３部門が行う事業への助言・管理・運営補助

①地域連携部門

・協定締結機関及び協力機関との事業プランに関する調整及び学内機関とのマッチング
・地域連携事業プランに関する進捗状況の把握・管理
・個別の学生ボランティアに関する公募・指導・管理・派遣
・出前講義への教員派遣等の高大接続に関する事項
・その他、地域連携に関する事項

②生涯学習・資格取得支援部門

・公開講座・シンポジウム・有料講座等の企画立案
・学部教育と連携した国家資格、教員及び公務員採用試験対策に関する補助講座の企画、運営、実施
・その他、生涯学習・資格取得支援に関する事項

③研究推進部門

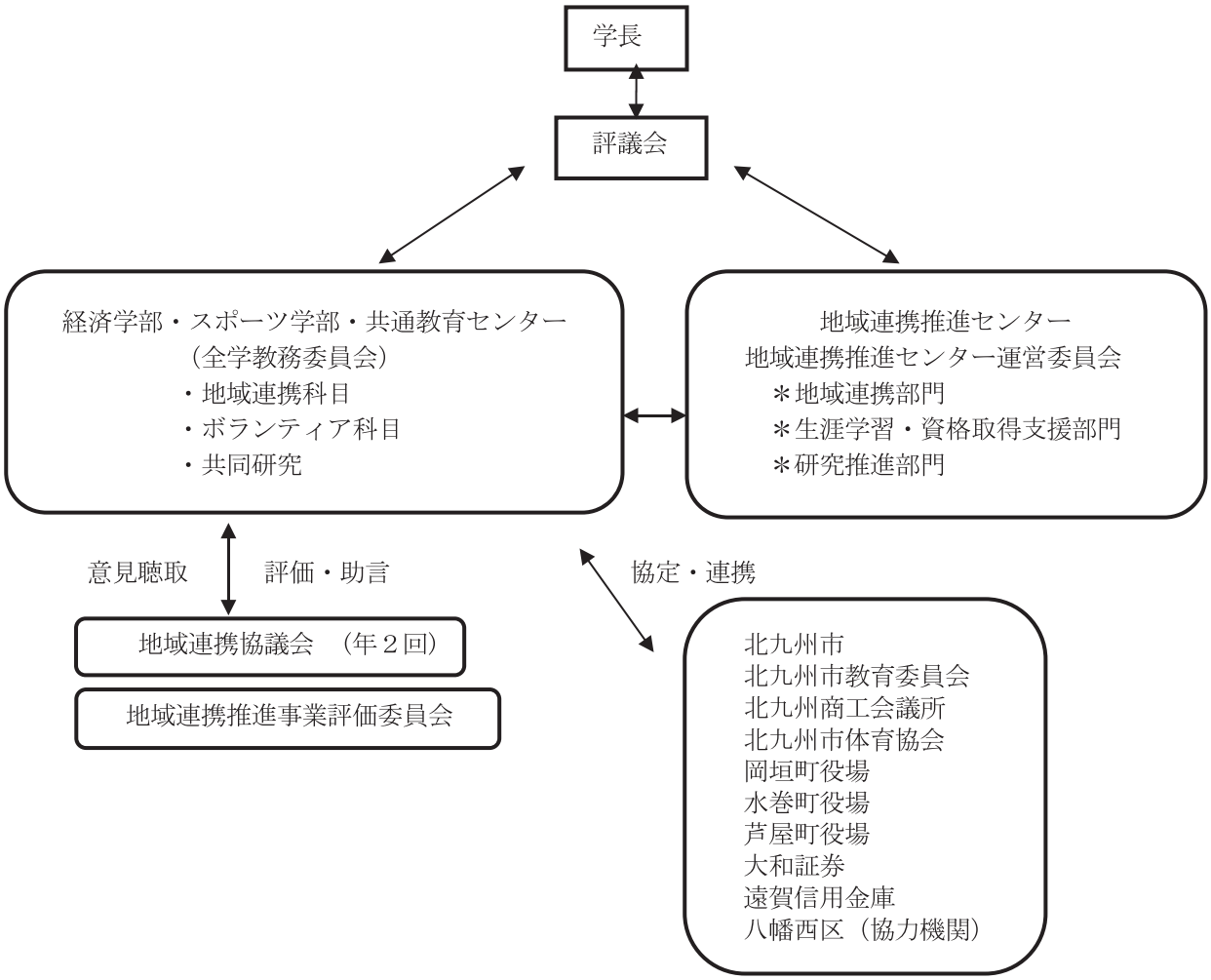
・自治体、企業、他大学等との地域連携に関する共同研究の受入窓口及び学内教員とのマッチング
・研究発表会等の企画立案・運営
・研究紀要の発行
・その他、地域連携に関する学内の研究推進に関する事項

(2)「地域連携推進センター運営委員会」「地域連携協議会」「地域連携推進事業評価委員会」の運営・管理
(3)協定締結の審議及び締結事務
(4)「地域貢献・連携事業」報告書（年報を含む）・紀要の発行
(5)その他、地域連携推進センターの運営に関する事項

## ○地域連携推進センター運営委員会

委員長　：地域連携推進センター所長
副委員長：地域連携推進センター副所長　２名
委　員　：各学部から学長が推薦した教員　各１名
　　共通教育センターから学長が推薦した教員　１名
　　その他、学長が推薦した教員
　　キャリア支援課長
　　教務課長
事務局　：地域連携推進センター職員
※所長・副所長の３名は、それぞれ３部門の部門長となる。

○組織図


学長
評議会
経済学部・スポーツ学部・共通教育センター
（全学教務委員会）
・地域連携科目
・ボランティア科目
・共同研究
地域連携推進センター
地域連携推進センター運営委員会
＊地域連携部門
＊生涯学習・資格取得支援部門
＊研究推進部門
意見聴取
評価・助言
協定・連携
地域連携協議会　（年２回）
地域連携推進事業評価委員会
北九州市
北九州市教育委員会
北九州商工会議所
北九州市体育協会
岡垣町役場
水巻町役場
芦屋町役場
大和証券
遠賀信用金庫
八幡西区（協力機関）

以上

# 目　次

## ≪地域連携事業プラン≫


1.【北九州市体育協会】
- 体育施設管理士養成講習会及び資格認定試験 … 1
- 体育施設運営士養成講習会及び資格認定試験 … 2

2.【岡垣町】
- 地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）第３号 … 3
- 岡垣プロジエクト 2018～『岡垣学Ⅱ』～ … 4
- 学生のサービス・ラーニング（社会貢献学習）を活用した人権意識調査に基づく学習指導案の作成及び提供 … 5
- 第 15 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会スポット講座「歩き方レッスン」「走り方レッスン」 … 7
- 障がい者クリスマス交流会 … 8
- ボランティア交流会 … 10

3.【北九州商工会議所】
- 若松中央商店街ハロウィンパーティ … 11

4.【北九州市教育委員会】
- 部活動外部講師派遣 … 13

5.【水巻町 】
- シンポジウム「遠賀堀川の魅力とまちづくり」 … 14

6.【八幡西区役所　保健福祉課】
- 脳活性化教室修了者への介護予防支援 … 19

目　次

≪人材育成・共同研究事業≫


1. 健康運動指導士養成講習会 … 20

2. みんなの健康フェスタ … 21

3. 九州共立大学フィットネスセミナー … 22

4. JR 九州ウォーキング … 23

5. 第１回　海外ボランティア学生交流プログラム … 29

6. 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室 … 33

7. 知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」 … 35

8. アンビシャス広場　運営スタッフ連絡会 … 38

9. 北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎研修　地域ふれあいコース … 39

10. 北九州市民カレッジ「大学連携リレー講座」 … 40

目　次

≪生涯学習・資格取得支援≫

1．平成 30 年度資格取得支援プログラム講座別受講者数集計表（延べ数）　…　41

2．平成 30 年度公開講座実施報告　…　42

3．九州共立大学スポーツ救急法講座　…　44

4．福原学園キャンパス市民ボランティア活動報告　…　44

5．北九州市民カレッジ講座　…　45

6．北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ　…　47

7．ボランティアフェスタ in 八幡西　…　48

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・<br>公益財団法人日本体育施設協会<br>事業名：平成 30 年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定<br>「体育施設管理士養成講習会・資格認定試験」 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 長野　史尚 |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 実施担当者 | 長野　史尚 |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3021 |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会<br>《職・氏名》事務局長　宮田　義高<br>《電話番号》（093）652-5007 |
| 事業実施日・回数 | | ７月 31 日（火）～8月３日（金） |
| 実施場所 | | 九州共立大学　自由ケ丘会館３階　J302 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者<br>参加者人数：１３名 |
| 経　　費 | | （あ　り）（ 講師謝礼金支給 ） |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を習得することによって、体育施設管理者の資質向上とともに、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、屋外スポーツ施設、体育館・武道館、水泳プール、音響、照明、スポーツフロアー、用器具、芝生など体育・スポーツ施設全般の維持管理に関する総合的な知識を有して、スポーツ施設の管理者として努める者の育成を目指す。<br><br>2．実績<br>受講生は福岡・東京・愛知・静岡からの参加であった。<br><br>3．効果<br>今後、北九州を始めとして各地で体育施設管理士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | ・開催期日についての検討<br>・受講者数を増やす工夫<br>・事業形態の再検討（事務局をどうするか等）<br>・その他 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・<br>公益財団法人日本体育施設協会<br>事業名：平成 30 年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定<br>「体育施設運営士養成講習会・資格認定試験」 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 長野　史尚 |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 実施担当者 | 長野　史尚 |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3021 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》事務局長　宮田　義高 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》（093）652-5007 |
| 事業実施日・回数 | | 平成３１年１月29日（火）～31 日（木） |
| 実施場所 | | 九州共立大学　自由ケ丘会館３階　J302 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者<br>参加者人数：１８名 |
| 経　　費 | | (あ　り)（ 講師謝礼金支給 ） |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>体育施設の管理運営に必要な知識・技能を習得することによって、指定管理者制度や事業運営等に対応できるマネジメント能力の向上を図ると同時に、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、マネジメント、顧客管理、広報戦略、人事管理、危機管理など体育・スポーツ施設の運営に関する総合的な知識を有して、施設の効率的運営及び活性化に努める者を育成する。<br><br>2．実績<br>受講生は福岡・広島・宮崎・鹿児島・熊本からの参加であった。<br><br>3．効果<br>今後、北九州を始めとして各地で体育施設運営士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | ・開催期日についての検討<br>・受講者数を増やす工夫<br>・事業形態の再検討（事務局をどうするか等）<br>・その他 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）第3号 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 山田　明 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》岡垣町役場 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》企画調整室・生涯学習課 |
| 事業実施日・回数 | | ４月～１２月　　《月１回》 |
| 実施場所 | | 岡垣町地域交流センター、九州共立大学 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：　スポーツ学部７名　　留学生１名　　計８名 |
| 経　　費 | | (あ　り)（特別研究費より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>学生が岡垣町の地域活性化を目的に歴史新聞を作成する。新聞を町内外に配布することで岡垣町の歴史遺産を広く広報し、町内にあっては地域の魅力再発見、町外にあっては訪れてみたい町として認識してもらうことを目的とする。<br>本活動は九州共立大学と岡垣町の地域連携事業である。学生にとっては貴重な学びの機会の獲得、地域社会にとってはまちづくりの進展、大学にとっては知（地）の拠点としての存在の明示となる地域貢献活動である。<br>2．実績<br>（1）事前準備<br>①大学での授業（「社会教育と生涯学習」等社会教育関係）と活動の関連性を明確にする。②文献やインターネットを活用し町の情報を収集する。③行政や町民との打ち合わせをする。④岡垣町でのフィールドワークを実施する。<br>（2）新聞作成<br>編集会議、記事の作成、編集・レイアウト、校正等を通して歴史新聞を完成させる。成果物（800部）は岡垣町に寄贈し町内外に配布してもらう。<br>3．効果<br>（1）学生：社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養<br>（2）岡垣町：地域活性化、まちづくりの進展<br>（3）大学：「知（地）の拠点」としての社会貢献 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 今年度で第3号を数える岡垣歴史新聞である。予定されている最終号（第5号）に向けて、学生目線の取材で地域の魅力をさらに掘り返す。<br>次年度は、事前調査とフィールドワークを徹底して実施する。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 岡垣プロジェクト2018～『岡垣学Ⅱ』～ |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 山田　明 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》岡垣町役場 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》企画調整室・生涯学習課 |
| 事業実施日・回数 | | 4月～12月　　《計１回》 |
| 実施場所 | | 岡垣町役場・九州共立大学 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：スポーツ学部　　８名 |
| 経　　費 | | あ　り（特別研究費より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>歴史と自然と人権の町、岡垣町。この岡垣町の魅力を再発見し、住みたい町、住み続けたい町への貢献として学生が若い世代の目線で魅力を掘り起こす取り組みが岡垣学である。今年度は食と水の物語をテーマに郷土料理や水を中心に地元の食進会のサポートを得て特集した。郷土料理は地域の行事とも関連が深い。あわせて食と歳時記、食にまつわる生活の中の知恵、資料として岡垣の特産品や岡垣自慢の水も掲載した。<br>2．実績<br>（1）岡垣町史における「食」に関係する内容の学習<br>（2）岡垣町の食進会からの聞き取り調査<br>（3）関係資料の収集と分析<br>（4）記事作成、編集<br>（5）校正<br>3．効果<br>（1）学生：社会を生き抜く市民性（シティズンシップ）の涵養<br>（2）地域社会：地域活性化及びまちづくり<br>本冊子は、岡垣町主催のボランティア交流会（2019年3月）で学生が岡垣町の住民の方々に解説する活動も実施した。<br>（3）大学：知（地）の拠点としての社会貢献の実施。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 岡垣学も2019年度で終了予定である。岡垣学Ⅰでは歴史・伝統・習俗、岡垣学Ⅱでは郷土料理と水を取り扱った。岡垣学Ⅲでは各コミュニティに取材して、さらに地域の魅力を学生目線で掘り起こす。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 学生のサービス・ラーニング（社会貢献学習）を活用した人権意識調査に基づく学習指導案の作成及び提供 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 山田　明 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》岡垣町役場 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》企画7調整室・教育委員会 |
| 事業実施日・回数 | | ４月～１２月　　《月１回》 |
| 実施場所 | | 岡垣町役場・九州共立大学 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：　スポーツ学部　９名 |
| 経　　費 | | あ　り（特別研究費より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>2017年度に実施した岡垣町の小中学生対象の人権意識調査及び分析書データを基に、人権意識の改善に資する学習指導案及び資料を提供する。<br>岡垣町（教育委員会）においては、この成果物を各学校で活用し、児童生徒の人権意識向上に役立ててもらう。<br>学習指導案の内容については、人権の６指導目標（自己認識・科学的認識労働観・国際理解・生命尊重・協調協働）の視点で学生が作成した。<br>2．実績<br>（1）事前学習<br>人権に関する諸課題について、大学教員による講義・演習を受講した。<br>（2）「人権意識調査及び分析書の作成」（2017）の確認<br>（3）学習指導案作成について、大学教員による講義・演習を受講した。<br>（4）学生各自が分担して学習指導案及び資料を作成した。<br>3．効果<br>（1）学生にとっては人権教育教材の作成を通じて、身近に人権課題をを認識し、自分の課題として取り組み、課題発見能力・課題解決能力に向上が見られた。<br>（2）地域社会にとっては青少年の人権意識向上にサポートが得られた。<br>（3）大学にとっては知（地）の拠点として社会貢献を果たした。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 岡垣町における青少年の人権教育の向上を目的としたプロジェクトも、「人権意識調査及び分析書の作成」「学習指導案及び資料の作成」を経て2019年に最終年度であり、教育現場で学生が授業を実施する予定。 |

九州共立大学

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 第１５回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会<br>スポット講座「歩き方レッスン」「走り方レッスン」 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 粟谷　健礼 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》岡垣町 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》 |
| 事業実施日・回数 | | ４月　２１日　《計　１回》 |
| 実施場所 | | 岡垣町立内浦小学校　運動場 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学スポーツ学部　教員：１名（粟谷）、学生：６名　計７名<br>事業対象者：ウォーキング大会・マラソン大会参加者<br>参加者人数：歩き方７２名、走り方９５名 |
| 経　　費 | | あ　り（講師謝礼金・交通費　岡垣町 より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>包括的地域連携協定に基づく事業の一つとして、第１５回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会にて、参加者に対してスポット講座「歩き方レッスン」「走り方レッスン」を実施した。<br><br>目的に合わせた歩き方や、走る際のポイントに触れることで、動作を考え今後の活動を楽しく意欲的に行えるようにすることを目的とした。<br><br>2．実績<br>歩き方レッスンに７２名、走り方レッスンに９５名が参加した。<br><br>3．効果<br>歩き方レッスンでは以下のような感想があった。<br>・初心者として、とても参考になりました<br>・参考になり、今後実行しようと思います<br>・とても楽しかった<br>走り方レッスンでは以下のような感想があった。<br>・楽しかった<br>・今日、走り方を学習してそれを今後に生かしていきたいです<br>・走り方が変だったのが、この講座が参考になりました |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 説明や実技時間などに改善の要望もあったため、今後はさらに焦点を絞った講座を展開したい。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：岡垣町社会福祉協議会<br>事業名：障がい者クリスマス交流会 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 実施担当者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3060<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》岡垣町社会福祉協議会<br>《職・氏名》<br>《電話番号》093-283-2940<br>《 E-mail 》 |
| 事業実施日・回数 | | 平成 30 年 12 月9日（日）　　《計　1 回》 |
| 実施場所 | | いこいの里　団体研修室 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学教員：1 名<br>九州共立大学学生 3 名（アダプテッド・スポーツ研究部）<br>九州女子大学学生 9 名（アダプテッド・スポーツ研究部） |
| 経　　費 | | （あ り）　講師謝礼金・交通費支給 |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 4. 事業目的・内容等<br>障がい者のふれあい交流と社会参加の促進を目的に開催する。<br><br>5. 実績<br>学生たちがプログラムを企画し実践した。<br><br>6. 効果<br>地域連携室に岡垣町社会福祉協議会より昨年度に引き続き２回目の依頼がありました。これまで毎年実施されている障がい者クリスマス交流会が、マンネリ化しているので学生さんたちの柔軟な発想で「障がい者クリスマス交流会」を企画して欲しいとの依頼でした。アダプテッド・スポーツ研究部の学生が中心となり、日頃の体操教室の経験を活かし障がいを持った方たちも一緒に楽しめるプログラムの作成に努めた結果、みなさん積極的に参加して下さり会場が笑顔に包まれました。帰り際に、「楽しかった！」とたくさんの方からお言葉を頂き、学生たちの自信にも繋がったようです。岡垣町社会福祉協議会の方からも来年も是非来て下さいとのことでした。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | できれば、事前の打合せより学生が加わることができると良いと感じました。<br>学生たちも責任感を持って関わり、貴重な経験をさせて頂きました。<br>今後も学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい。 |

## ≪平成 30 年度　障がい者クリスマス交流会≫

みなさんとても楽しそうです☆

『ふれあい』をテーマにレクリエーションをしました(^^♪

ふうせんリレー　　サンタさんからのプレゼント

12/9（日）
集合：8：25　　場所：自由ヶ丘会館前
出発：8：30　　備考：紺ポロ・トレーナー集合

≪プログラム≫
○アダプテッドスポーツ研究部紹介　　○ダンス
○間違え探し　　○ふうせんリレー

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | ボランティア交流会（岡垣町） |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 山田　明 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》岡垣町役場 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》福祉課 |
| 事業実施日・回数 | | 平成31年３月10日　　《計１回》 |
| 実施場所 | | 岡垣町地域交流センター |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：　スポーツ学部6名　と教員１名<br>事業対象者：岡垣町のボランティア団体の代表者<br>参加者人数：約30名 |
| 経　　費 | | あ　り　・　（な　し） |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>2018年度に取り組んだ地域の魅力を再発見する冊子「岡垣学」Ⅱ担当の学生記者代表６名が、岡垣町民の方を対象に、その内容を易しく解説した。<br>本プログラム（岡垣学プロジェクト）は、2017年より実施しており、各回、それぞれテーマを設定し取材をしている。本年度は、岡垣の「食」と「水」を切り口に冊子を作成した。<br><br>2．実績<br>学生記者は、それぞれの担当部署について、パワーポイント資料を作成し、プレゼンテーションのリハーサルをした上で交流会に臨んだ。<br>ボランティア交流会では、学生の活動した成果を町民の方と共有する良い機会であり、参加者の方（ボランティア団体の代表）にも学生の活動の一端を知っていたことが有意義であった。<br><br>3．効果<br>学生は、地域社会の伝統、習慣、食文化等にふれ、自らの郷土との関係性にも思いを巡らし、地域の活性化について自分のこと（当事者意識）としてと捉える学びができた。町民の方からも地域貢献へのお礼の言葉が多くあり、学生と地域の方が十分に交流できた会合であった。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 取材や原稿執筆に関するスキルについて、さらに向上するように、取材の仕方、資料の読み込み、表現力等を涵養していきたい。また内容については、地域のニーズと学生の目線を大切にしたものになるように留意していきたい。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 若松中央商店街ハロウィンパーティー |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 末木将史 |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》　北九州商工会議所　若松サービスセンター |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》　武末雅史センター長 |
| 事業実施日・回数 | | 10月27日・10月30日　　《計　2回》 |
| 実施場所 | | 学内、若松商店街連合会事務所、および若松中央商店街 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　延べ11名<br>事業対象者：商工会議所、若松商店街中央会<br>参加者人数：上記、および域内幼稚園保育園関係者(150人超) |
| 経　　費 | | (あ　り)　特別研究費　より支出)　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>・ワークショップにおける、若松ハロウィンパーティー参画の意義と目的について(10/27)<br>・若松ハロウィンパーティー、主催者連絡会議への出席(10/27)<br>・当日の参加協力(若松中央商店街での作業担当)(10/30)<br>・反省会および感想討論(11/9)<br><br>2．実績<br>・本PJは、イベントにボランティアとして参加することが主目的ではなく、地域(若松)が抱える問題・課題を理解し、対応策を学生が考える機会とすることが真の目的である。そのため、事前学習、反省会が教育上重要であった(10/27)<br>・みなと祭り当日は、九共大ワークショップのチームとして若松中央商店街でのサポート(園児・保護者誘導等)を行った。<br><br>3．効果<br>・九州共立大学生がイベント実施の戦力になったことをアピールできた(対外効果)<br>・参加学生に、若松地区の産業・社会の実情を体感してもらうことができた(教育効果)<br>・〃に、まつりイベントの企画趣旨/運営を認識･体験してもらうことができた(教育効果)<br>・〃に、イベントの準備作業/企画会議/KPI/PDCAなどを認識してもらうことができた (教育効果) |
| 今後の改善内容及び展開 | | ・「若戸大橋無料化イベント(11/30-12/1)への参加、および事前学習として本機会を活用する。 |

STAFF

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：北九州市教育委員会<br>事業名：部活動外部講師派遣 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 篠原　純司 |
| | 所　　属 | 地域連携推進センター所長 |
| | 実施担当者 | 橋本　チエミ |
| | 所　　属 | 地域連携推進センター |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3255 |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》北九州市教育委員会指導第二課<br>《職・氏名》宮田　理<br>《電話番号》093-582-2367 |
| 実施場所 | | 木屋瀬中学校・足立中学校・沼中学校・永犬丸中学校・浅川中学校 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学：<br>ボランティア学生：経済学部　　０　名、スポーツ学部　５　名　計　５　名 |
| 経　　費 | | 謝金は１回 2,000 円、月上限 10,000 円 |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | １．事業目的・内容等<br>各競技で専門性も持つ学生が、近隣の中学校で部活動外部講師として指導にあたることから九州共立大学との連携事業を推進する。<br><br>２．実績<br>木屋瀬中学校（野球）<br>足立中学校（バスケット）<br>沼中学校（バスケット）<br>永犬丸中学校（バレー）<br>浅川中学校（ソフトテニス）<br><br>３．効果<br>学生全員が将来教員を目指しており、中学生の学校での様子がよくわかり、また現場の先生方の動きなどを見聞きすることができ、参考になった。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 10 名の枠があるため、条件の見直しや参加学生の募集が検討課題となる。<br>（交通費は学生負担、保険は北九州市教育委員会の負担） |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：堀川シンポジウム実行委員会<br>事業名：シンポジウム「遠賀堀川の魅力とまちづくり」 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 梅田　勝利（ちょボラ部部長） |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 実施担当者 | 栗原 啓輔（日本）、オウ カセイ（中国）、ボルドクフ エンフオルギル（モンゴル） |
| | 所　　属 | 経済学部・スポーツ学部　３年、２年、１年 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3211<br>《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》遠賀郡水巻町<br>《職・氏名》水巻町長・美浦　喜明<br>《電話番号》093-201-0999（水巻町教育委員会　図書館・歴史資料館）<br>《 E-mail 》ohtsubo396@town.mizumaki.lg.jp |
| 事業実施日・回数 | | 平成３１年2月１６日（土）、７月から毎月１回（土曜日）　《計９回》 |
| 実施場所 | | シンポジウム（水巻町中央公民館）、堀川ジュニアマイスター講座（水巻町図書館） |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学：経済学部（中国人・モンゴル人留学生を含む）・スポーツ学部の学生<br>事業対象者：ちょボラ部<br>参加者人数：３２名（顧問２名、参加部員３０名） |
| 経　　費 | | なし |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1.　事業目的・内容等<br>本シンポジウム（主催：堀川シンポジウム実行委員会、共催：九州共立大学、北九州市、北九州市教育委員会、中間市、中間市教育委員会、水巻町、水巻町教育委員会、後援：福岡県教育委員会）の目的は、土木史の観点から、遠賀堀川の歴史的価値を再評価し、その価値を後世に継承すると共に、次世代のまちづくりを担う人材の育成を図ることである。具体的には前半では、馬場俊介・岡山大学名誉教授が「土木史学的視点からみた堀川運河の価値評価」と題して講演を行い、堀川流域各市町文化財担当職員が「堀川文化財総合調査」と題して研究報告を行った。後半では、中学生１０名・高校生１名と本学学友会ちょボラ部員８名が「堀川ジュニアマイスター講座の紹介」において、両者が「遠賀堀川への愛着の有無」と「遠賀堀川を知っているか否か」というクロス集計表を作成して分析した結果と考察について、研究発表を行い、今後のまちづくりについて提案した。具体的には３０年前および現在のアンケート調査結果から遠賀堀川の現状と課題について把握し、遠賀堀川を活かしたまちづくりへの提案について発表した。最後にシンポジウムのまとめとして、筆者（堀川まちおこし実行委員会委員・堀川シンポジウム実行委員会委員）が司会・コーディネーターとして、シンポジウム当日の来場者３１０名（スタッフを含めると３７３名）の代表的質問を取り上げ、質疑応答・議論を行った。<br><br>2.　実績<br>本シンポジウムにおける最大の特長は中学生（水巻中学校、水巻南中学校）・高校生（折尾高等学校）とちょボラ部員との共同研究発表である。堀川ジュニアマイスター講座では、ちょボラ部員３０名がローテーションを組んで、中学生・高校生と共に、現地視察（遠賀堀川、中間唐戸、河守神社、車返の切貫、寿命唐戸など）・まちづくりワークショップ・研究発表用資料作成などを行った。また、オウ カセイくん（中国）が、ちょボラ部員留学生のとりまとめを行い、講座参加者と共に遠賀堀川とその流域の現状把握・課題解決に取り組んだ。ボルドクフ エンフオルギルさん（モンゴル）は |

| | |
|---|---|
| | 本シンポジウム後半でちょボラ部の紹介を行った。<br>　ちょボラ部主将の栗原 啓輔くん（スポーツ学部３年。堀川シンポジウム実行委員会委員）の感想は次のとおりである。<br>「シンポジウム開催の打ち合わせを含めると１年以上かけた活動になりました。毎月１回の堀川ジュニアマイスター講座では、私たちは中高生１１名のファシリテーターとして活動しました。その活動を展開させ、遠賀堀川をどのように活用すれば、まちづくりができるのかという具体的な方法について、中高生と共に考えて、その結論をシンポジウムで発表しました。各ジュニアマイスター講座では、中高生と年齢の近い大学生という立場を活かして、親近感をもってもらえるような距離で、接することを意識しました。当初、中高生から緊張を感じました。しかし、講座前や遠賀堀川現地視察へ向かうバスの中で、アイスブレイクを行い、相手を知ることによって徐々に、緊張をほぐせている実感がわきました。結果として、何気ない会話からシンポジウムで活用する問題提起やその解決策を多く聞きだすことのできる良い環境を作ることができました。私自身は、シンポジウム前日まで、各発表者（現状把握のためのクロス集計表説明グループ、問題提起２グループ、解決策提案２グループ計５グループ）のパワーポイントのスライドとその発表原稿の確認・修正を行いました。シンポジウム当日までの１週間は、深夜１時に顧問の梅田先生に何度も連絡して相談したり、部の仲間と明け方まで議論したりして、資料を作成しました。シンポジウム当日には総合司会を務めました。当日は、美浦喜明水巻町長、白石雄二水巻町議会議長、福田健次中間市長や３００人以上の来場者にお越しいただきました。そのような舞台で活動できたことは、ちょボラ部員の経験蓄積と自信獲得に繋がったと思います。今回、堀川ジュニアマイスター講座受講者と一緒に堀川の歴史を学んだことによって、私たちは３つの能力が向上したように思います。１つめは、他人に働きかけ巻き込む力です。３００人以上の来場者という結果にもそれは表れていると思います。部員をこの活動に巻き込む以外に、今年度のちょボラ部のテーマとなっている外部への「情報発信力の強化」にも務めました。ツイッターを利用し、写真を添え、イベントの広報力強化に努め、活動結果報告を行いました。その中でどのような方法を採るとリアクションが良いのかなど、発信方法等について試行錯誤した結果、遊び心のある大学生らしいものがどのようなものかがわかってきました。これらを後輩へと継承していくことが今後のちょボラ部の伝統になるのではないかと思います。２つめは、課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力です。今回の資料作成は、納得のいくレベルにもっていくため、前日まで毎日、部員や顧問の先生と協議しました。何をどのように誰が進めていくのかなど、ちょボラ部主導で７月から、定例ミーティング等で計画を立てていきました。早いうちにスタートを切ったことが、後々の部員や中学生が自信をもつことに繋がったと考えています。また、最後まで追い込むことができたのも、余裕をもって取り組んだことが要因だと今になって感じています。シンポジウムでは３５年前にとった遠賀堀川についてのアンケートと３５年前と同じ内容のアンケートを今回とって、その比較から研究発表を始めました。大学で学んだ統計学を用いて、比較・分析を行いました。それができるちょボラ部員の層の厚さを今回感じました。講座のファシリテーターとして、受講者のためのマイルストーンを設定した経験は、今後の後輩たちのボランティア活動から就職後まで役立つと思っています。３つめは自分の意見をわかりやすく伝える力です。講座のワークショップで、受講者と接するうちにこの力が向上したように思います。各講座で今日は何をするのかという目的を明確にして、シンポジウムで根拠となるアンケートの分析方法とその結果の説明から今後のちょボラ部の行動計画まで、部員同士の情報共有など報告・連絡することを何度も繰り返しました。また、歴史ボランティアの方など、高齢者の方と接する時間が多くあり、それに合わせた表現を加えて意見や情報を伝えました。私たち大学生は、大学の授業から就職活動まで、自分の意見や考えを述べる機会が多くあります。普段接することの少ない方と意見交換する経験は、今後の人生で活きると考えています。 |

| | |
|---|---|
| | 今年度は、上記３つの能力が向上したと思います。私が、２年間の主将・統括として習得した経験・知識・技術は就職活動、就職後に活きると思っていますが、何よりも今後のちょボラ部員の成長にも繋がっていると思います。「強制しない」がモットーのちょボラ部は様々な場で大学生・留学生が活躍できることが最大の魅力であると思います。そのような部で、６０名の部員を引っ張ることができる、リーダーシップ力を習得することができました。この経験を後輩に継承し、経験の蓄積を連鎖させることで部員の成長を図ることができ、その後の就職活動に活きると考えています。」<br><br>3.　効果<br>　本学学生にシンポジウム開催のための企画・運営の経験を積ませると同時に、地域社会との連携や交流を推進した。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている、両学部共通の課題探求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力の向上に加えて経済学部の実践能力や調整能力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進されて、学問領域を超えた学際的な知識の習得が図れたと考えている。具体的な効果については後日、ちょボラ部部員に対してアンケート調査を実施して、これを測定・分析したいと考えている。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | 　例年、ちょボラ部主催によりシンポジウム「水と緑とまちおこし」を開催している（一昨年度、昨年度と２回実施した）。今年度は、第３回「水と緑とまちおこし」を来年度に延期し、本シンポジウム開催に全面的に加わった。過去２回の経験が、上手く継承されており、ちょボラ部の企画どおり運営された。今年度のちょボラ部のテーマは「情報発信力の強化」である。例年課題となっている外部者に対する情報発信方法への工夫に関しては、主催者でも広報担当者でもなかったため、評価することはできなかったが、情報伝達方法への工夫に関しては、多くの部員からシンポジウムの当日来場者に対して、いかにわかりやすく表現するかについての質疑応答が非常に多く、それを受けて改善された点が多かったことから考えると、情報伝達能力は向上したと考えている。後日、ちょボラ部員に対してアンケート調査を実施して、これを測定・分析し、その結果と考察について、論文というかたちで公表したいと考えている。<br>　今回の経験を活かして、より専門的な知識と技術を習得させ、次回のシンポジウム第３回「水と緑とまちおこし」の開催に備えたいと考えている。 |

# 「遠賀堀川の魅力とまちづくり」

シンポジウム

～苦節二百年の開削、刻まれてきた歴史と繋ぐ未来～

とき：平成 31 年（2019）
2 月 16 日（土）
13：30 開演
（13：00 開場・16：30 終了予定）

ところ：遠賀郡水巻町
中央公民館
大ホール

入場料：無料
定員：300 名・申込要
申込先：水巻町歴史資料館
電話 093-201-0999　FAX 093-201-0995
窓口、電話、FAX にてお申し込み下さい
申込期限：2/11（月）

プログラム
◆開会行事
◆講演「土木史学的視点からみた
堀川運河の価値評価」
馬場俊介（岡山大学名誉教授）
報告「堀川文化財総合調査」
堀川流域各市町文化財担当職員
◆シンポジウム
「堀川ジュニアマイスター講座の紹介」
九州共立大学ちょボラ部・
堀川を学ぶ中学生高校生
「遠賀堀川の魅力とまちづくり」
（司会）梅田勝利（九州共立大学教授）
（パネリスト）　馬場俊介・
堀川流域市町文化財担当職員

主催：堀川シンポジウム実行委員会
共催：九州共立大学・北九州市・北九州市教育委員会・中間市教育委員会・水巻町・水巻町教育委員会
後援：福岡県教育委員会

遠賀堀川は江戸時代に初代藩主黒田長政により開削工事がはじまり、紆余曲折 183 年を経て完成しました。周辺の田畑を潤し、明治から昭和初期には多くの川ひらたが行き来し、きれいな川のときには貝や魚が捕れ生活の一部にもなっていました。大きな役割を果たした堀川の歴史と価値をもう一度みつめなおし、未来につなげていきたいと願います。

## 講演者・パネリスト紹介

### 馬場俊介（ばばしゅんすけ）

◆ 岡山大学名誉教授
土木工学を専門とし近世以前、近代の土木遺産の調査、研究成果を国内外に発信している。
土木史では初めての「土木学会論文賞」
平成 23 年度には「岡山県教育関係功労賞」受賞。
近著に「近世以前の土木・産業遺産」など。

### 梅田勝利（うめだかつとし）

◆九州共立大学経済学部教授・地域連携センター副所長
現在、経営関連学会協議会監事、日本企業経営学会常任理事、国際公会計学会監事などを務める。堀川まちおこし実行委員会（北九州市、中間市、水巻町）委員として、ゼミや学友会ちょボラ部の学生と共に、会計学と観光学の視点から、地域活性化に取り組んでいる。

### 小南裕一（こみなみひろかず）

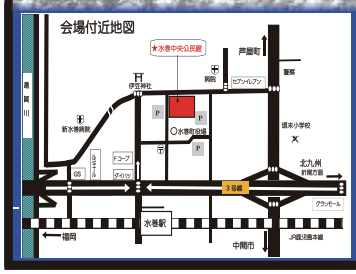
◆北九州市文化企画課学芸員・博士 ( 史学 )
北九州市内における文化財の調査・保護業務を担当。専門は考古学で主要研究テーマは西日本弥生文化成立過程の研究。
主な著作『縄文後・晩期土器と板付Ⅰ式土器』『弥生時代の考古学② 弥生文化誕生』同成社（2009）

### 吉田浩之（よしだひろゆき）

◆ 中間市教育委員会生涯学習課社会教育係
中間市内における文化財の調査・保護業務、資料館運営業務、社会教育全般の業務を担当。2012 年「中間唐戸 250 年記念九州堀川サミット」を中間市で開催し、同年日南市で開催された全国運河サミットで遠賀堀川について発表。また世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」の調査および世界遺産に携わる。

### 大坪剛（おおつぼつよし）

◆水巻町教育委員会図書館・歴史資料館学芸員
水巻町内における文化財の調査・保護業務を担当。歴史資料館では水巻町とその周辺の歴史や文化財などをテーマに企画展示を開催、地域の魅力発信に取り組む。『増補水巻町誌』や『堀川文化財総合調査報告書』執筆編集に携わる。




【会場案内】　水巻町中央公民館
〒807-0022
福岡県遠賀郡水巻町頃末北 1 丁目 1 番 2 号
【交通案内】
・JR 水巻駅から徒歩 5 分
・車 / 北九州市都市高速道路黒崎 IC から 20 分
九州縦貫自動車道鞍手 IC から 15 分

申込・問合せ　水巻町歴史資料館
電話　093-201-0999　　FAX　093-201-0995
開館時間　10:00 ～ 18:00
休館日　月曜（祝日の場合翌日）1/31

シンポジウム
「遠賀堀川の魅力とまちづくり」
九州共立大学　学友会
ちょボラ部　紹介

九州共立大学　学友会
ちょボラ部　紹介
2019（平成31）年2月16日（土）
九州共立大学 地域連携推進センター副所長、
経済学部教授、学友会ちょボラ部部長

シンポジウム
「遠賀堀川の魅力とまちづくり」
ジュニアマイスター講座
受講生と九州共立大学
ちょボラ部による

なぜ、
堀川への愛着を持っているのに、
堀川が作られた理由を

愛着はあるが、
堀川を作られた理由
を知ってもらうのは
どうすればいいの？

堀川が作られた理由を
知ってもらい、

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 脳活性化教室修了者への介護予防支援 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 樋口　行人　・　大下　和茂　・　久保田　吉浩（非常勤） |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》　八幡西区（紹介） |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》　地域包括支援センター担当係長　原田めぐみ |
| 事業実施日・回数 | | ５月１０日・７月１２日・９月１３日・１１月８日・１月１０日・３月１４日<br>（予）　《計　６　回》 |
| 実施場所 | | 大原市民センター |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　０名、スポーツ学部　２名　計　　２名：<br>事業対象者：　区民（脳活性化教室修了者）<br>参加者人数：　１０名 |
| 経　　費 | | (あ　り)（　　特別教育研究費　より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>脳活性化教室（これ自体は行政の事業）修了者が自発的に集まっている勉強会「希望の会」（10名で活動）にて、運動を中心とした介護予防支援を実施する。<br>運動のみならず、食事等も含めて広く介護予防につながる内容とする。また、本学学生の実践活動の場とするものである。<br>2．実績<br>５月１０日　年度初め体力測定　＊樋口<br>７月１２日　ウォーキング　＊樋口　学生参画<br>９月１３日　シナプソロジー　＊大下<br>１１月８日　サルコペニア予防　＊樋口<br>１月１０日　食事　＊樋口<br>３月１４日　健康体操曲げ伸ばし　＊久保田　学生参画<br>（３月は予定）<br>3．効果<br>出席状況はまちまちであるが、来ることによって住民同士つながりもできているのではないかと思われる。運動教室ではなくサークル活動で、普段は詩吟等を行っているため、運動制限のある方（痛いのでできない）も多いが、それなりに運動（活動）効果が出ているのではないかと思われる。高齢者は若い人との交流が楽しみであることを参画学生が感じとったこともよい効果である。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 対象者は８０～９０歳代のため、年々制限が多くなっている。来年度より社会福祉協議会の支援を受けての活動となる予定である。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 健康運動指導士養成講習会【福岡会場】 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 樋口　行人 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》　公益財団法人健康・体力づくり事業財団 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》　事業部　浅海　清 |
| 事業実施日・回数 | | 7月　２３日　　《計　１　回》 |
| 実施場所 | | ＴＫＰガーデンシティ天神 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名：<br>事業対象者：　講習会受講者（健康運動指導士志望者）<br>参加者人数：　55名 |
| 経　　費 | | (あ　り)（　　事業財団　より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>健康・体力づくり事業財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動指導士」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。<br>この度、養成講習会の講師として依頼を受け、養成講習会テキスト第１５章の「栄養・食事アセスメント（低栄養対策含む）」の講習を90分間受け持った。<br><br>2．実績<br>パワーポイント、板書、ロールプレイを用いたため興味を引けたと思われる。５５名の参加者があり、本学卒業生も１名受講していた。事後の質問も活発で好評であった。<br><br>3．効果<br>福岡会場ということで、今後健康指導士となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。また、資格取得後に必要な更新講習（単位認定講習）を本学で行っていることも伝えることができ、地域の健康を下支えする基盤ができつつある。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 健康運動指導士育成は地域活性化にもつながると思われるので、健康フィットネスコースを持つ本学部としては続けていく価値がある。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | みんなの健康フェスタ |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 樋口　行人　・　藤﨑　道子（非常勤） |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》　日本健康運動指導士会福岡県支部 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》　支部長　松﨑　守利 |
| 事業実施日・回数 | | 9月　22日　　《計　1　回》 |
| 実施場所 | | 久留米シティプラザ |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　0名、スポーツ学部　1名　計　　1名：<br>事業対象者：　市民<br>参加者人数：　約500名 |
| 経　　費 | | あ　り（　　特別教育研究費　より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>日本調剤株式会社との連携事業「ちょこトレ」を活用する場として、久留米市の参加型健康フェアで公開セミナーを行った。一般市民の健康概念の醸成に寄与するものである。<br><br>2．実績<br>公開セミナー「ちょこトレで元気アップ」参画（ステージで体操実演）<br>（参加者50名程度）<br>他、フェア補助業務<br><br>3．効果<br>フェア参加者は、おそらく飛び込みも多かったと思われる。運動をしない人、興味のない人への教育という意味で重要であった。参画学生にとっては「ちょこトレ」の貴重な現場活用機会となった。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 「ちょこトレ」に参画してくれた学生が卒業なので、次代でも人材を育て、「ちょこトレ」第2弾を制作したい。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| 年　　度 | | 30年度 |
|---|---|---|
| 事業名 | | 平成３０年度　九州共立大学フィットネスセミナー |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 樋口　行人　・　大下　和茂 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》　公益財団法人健康・体力づくり事業財団 |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》　理事長　下光　輝一 |
| 事業実施日・回数 | | ９月　１６日　　《計　１　回》 |
| 実施場所 | | 九州共立大学スポーツ学部A館 |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名：<br>事業対象者：　講習会受講者（健康産業従事者）<br>参加者人数：　22名（募集定員20名） |
| 経　　費 | | (あ　り)（　　経常運営費　より支出）　・　な　し |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>このセミナーは、地域の運動指導者の知識・実践力の向上に寄与しようとするものであり、運動指導者のための運動と食事を絡めた講習会は少ないため、開設するものである。受講により、健康運動指導士および健康運動実践指導者の登録更新必要単位として、講義3単位、実習3単位が認められる。<br>（認定番号186516）<br><br>2．実績<br>6時間の講習でサルコペニア・ロコモティブシンドロームを運動と食事面から解説し、各々が知見を深めた。22名の参加者（うち6名は本学卒業生）があり、事後の質問も活発で好評であった。<br><br>3．効果<br>健康・体力づくり事業財団の単位認定講習を大学主催で行う例は少なく、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。特に卒業生を取り込んでいるところが大きい。また、今年度は早々に募集を締め切る状況であり、期待の大きさが伺える。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 結果的に教員免許状更新講習よりも受講者が多く、健康フィットネスコースを持つ本学部としては続けていく価値がある。今後はGFIの更新単位を付与することも検討している。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

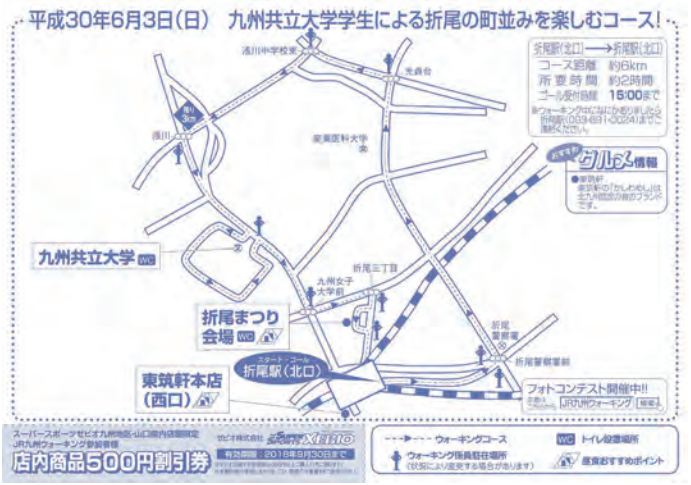
| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：九州旅客鉄道株式会社（JR 九州）<br>事業名：JR 九州ウォーキング |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 梅田　勝利（ちょボラ部部長） |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 実施担当者 | 栗原　啓輔（ちょボラ部主将）、三好　智高、リ　メイシン（中国） |
| | 所　　属 | 経済学部・スポーツ学部３年、２年 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3211<br>《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》九州旅客鉄道株式会社（JR 九州）<br>《職・氏名》折尾駅長・工藤　周作<br>《電話番号》093-691-0024<br>《 E-mail 》sh.kudou@jrkyushu.co.jp |
| 事業実施日・回数 | | ４月２８日（土）、５月６日（日）、６月３日（日）、１０月１４日（日）《計４回》 |
| 実施場所 | | JR 黒崎駅（４月２８日、５月６日）、JR 折尾駅（６月３日）、JR 遠賀川駅（１０月１４日） |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学：経済学部（中国人留学生を含む）・スポーツ学部の学生<br>事業対象者：ちょボラ部員<br>参加者人数：２０名 |
| 経　　費 | | あ　り　・　（な　し） |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1.　事業目的・内容等<br>JR 九州が主催するイベント「JR 九州ウォーキング」にスタッフとして参加した。ちょボラ部員が参加したのは、「筑豊電鉄に乗って「木屋瀬宿」と「吉祥寺藤まつり」を楽しもう！」（４月２８日）、「黒崎工業地帯から洞海湾を眺めて二島駅から「DENCHA」に乗ろう！！」（５月６日）、「九州共立大学学生による折尾の町並みを楽しむコース！」（６月３日）「芦屋基地航空祭にブルーインパルスを見に行こう！！」（１０月１４日）の４コースである。昨年度に JR 九州と共同でコース開発を行った「九州共立大学学生による折尾の町並みを楽しむコース！」を、今年度に PDCA サイクルの実践というかたちで運営を行った。本事業は、公共性・公益性が高い企業において、ボランティア活動を行うという産学連携活動であり、地域貢献活動でもある。JR 九州が、県内の大学と連携して JR 九州ウォーキングというかたちを通じて、地域貢献活動を行うのは本学が初めてということもあり、その活動の継続をお互いが期待していることから、今後も当該事業に積極的に関わっていくことが期待できると共に、参加した学生のイベント企画・運営力の育成を図ることを目的としている。<br>なお、ちょボラ部が本イベントにボランティアとして参加するのは３年目である。<br><br>2.　実績<br>昨年度のコース共同開発を行ったときと同様に、JR 折尾駅工藤周作駅長、水摩圭祐副駅長を第一学舎中会議室にお招きし、イベントの打ち合わせだけではなく、企画・運営の方法についても打ち合わせを行った。加えて、本学内コースを一緒に歩いて、問題点を洗い出した。また、折尾まつりを主催する協同組合折尾商連と連携し、折尾商連内で部員がオリジナル缶バッジを作成した。さらに、アンケート調査に協力していただいたウォーキング参加者に対してプレゼントする、オリジナルタオルの企画を行った。当日は、本学内の運営スタッフとして、JR 九州当日スタッフや折尾まつりを主催する協同組合折尾商連と連携して、イベント参加者との交流を積極的に図って、満足度の向上に努めた。 |

ちょボラ部副主将の三好 智高くんの感想は次のとおりである。
「ＪＲ九州が、初めて大学との共同企画として、ちょボラ部とコラボレーションしたイベントということで、私の自慢できる経験のひとつとなりました。折尾駅北口からスタートし、私たちの部活動と深い関わりをもつ遠賀堀川沿いと折尾警察署前などを歩いて行き、学園大通りから本学内に入り、本学外に出た後に折尾まつりに参加して折尾駅北口にゴールするというコースを、ちょボラ部が実際に何度も何度も歩いて、開発しました。当日、九州共立大学自由ケ丘会館 2F では、ちょボラ部の日本人学生がクイズ大会を行い、ちょボラ部中国人留学生が中国茶体験を行いました。そして、アダプテッドスポーツ研究会に協力要請して、イベントに参加していただきました。さらに、ウォーキング参加者が休憩できる工夫もしました。ラグビー場では、7 人制ラグビー日本代表の中野将宏さん（梅田ゼミ卒業生）に協力していただき、握手会・撮影会を行い、大いに盛り上がりました。今回、昨年度に JR 九州と共同で、コース開発を行った「九州共立大学学生による折尾の町並みを楽しむコース！」を今年度に運営を行ったことによって、私たちは３つの能力が向上したように思います。１つめは、物事に進んで取り組む力です。スタッフとして参加するときは、各人が違う場所に立ち、異なる役割を持つようになります。ときには、道が狭くて注意をしなければならない場所の周辺を任されるときもあります。そのような場合、近くに JR 九州の職員がいないため、事前に受けた指導の下、私自身の責任と判断でその場所の役割を果たさなければなりませんでした。具体的には、信号のない横断歩道を参加者が渡るとき、私の判断で車を止め参加者を誘導したり、参加者にコースについて質問されたとき、私の分かる範囲内でお答えしたりしました。その結果、参加者からとても感謝されたことがあります。そのときは、本当にこのイベントに携わることができて良かったと思いました。今後もこの主体性をもって物事に取り組みたいと思います。２つめは、新しい価値を生み出す力です。JR 九州が大学と連携して開催した初めての企画ということで、JR 九州や参加者は期待しているだろうと思いました。そこで、私は、今までにないかたちのイベントにすることはできないかと考えました。それが、今回の本学内を見学していただくコースになりました。様々なイベントを、本学内で催すことで参加者に本学に関心を持っていただくこともできました。今後も企画するときには、この経験と創造力を活かしていきたいと思います。３つめは、相手の意見を丁寧に聴く力です。私たちがイベントを企画した際には、多くの部員から様々な意見が出てきました。多様な意見により当初は戸惑いましたが、改めて１つ１つ丁寧に意見を聞くことによって次第に把握しやすくなり、円滑に議論が進むようになりました。また、別のイベントにスタッフとして参加したときに、その参加者から様々な意見を聞いていました。意見を丁寧に聞いていたからこそ、今回の成功につながったのではないかと思います。今後も人の意見を素直に聞くという傾聴力の向上を図っていき、この経験を活かしていきたいと思っています。」

以上のイベントをきっかけとして、本学との交流の進展を図るため、また折尾駅と学生・生徒を中心としたコンパクトシティに対する現時点の JR 九州の構想等を知るため、後日、JR 折尾駅工藤周作駅長（福原学園評議員）をお招きして、講演会を下記のとおり開催した。

1. 開催日時：2018（平成 30）年 12 月 21 日（金）２時限
2. 開催場所：本学第一学舎 31 教室（三原先生のご厚意による）
3. 対象学生：経済学部 2-4 年生
4. 講演タイトル：「折尾駅および駅周辺の現在と未来」
5. 講演内容：折尾駅の取り組み（地域に対するものなど）、就職へのアドバイス等
6. 総合司会：木付航介（梅田ゼミ４年、ラグビー部所属、JR 九州内定者）
7. スケジュール：開会挨拶：10:50-10:55（遠藤先生）、講演：10:55-11:45、質疑応答 11:45-12:00、閉会挨拶：12:00-12:05（田中事務局長）
8. 参加者数：学生 200 名（見込）＋教員８名

| | |
|---|---|
| | ⑴　三原ゼミ：学生　９名＋三原先生<br>⑵　吉田ゼミ：学生 47 名（うち留学生７名）＋吉田先生<br>⑶　入江ゼミ：学生 15 名＋入江先生<br>⑷　堂野崎ゼミ：学生 52 名（うち留学生５名）＋堂野崎先生<br>⑸　末木ゼミ：若干名＋末木先生<br>⑹　仁部先生：学生 15 名＋仁部先生<br>⑺　遠藤ゼミ：学生 30 名＋遠藤先生<br>⑻　梅田ゼミ：学生 30 名＋梅田<br>　当日は、筆者と懇意にしていただいている、西日本新聞社北九州本社編集部　金田達衣折尾支局長に取材に来ていただいて、2019（平成 31）年１月８日付の西日本新聞 19 面に標記講演会の記事が掲載された。これによって、JR 折尾駅とはより良い関係を構築することができたと考えている。<br><br>3.　効果<br>　本学学生にイベント開催のための企画・運営の経験を積ませると同時に、地域社会との連携や交流を推進した。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている両学部共通の課題探求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力の向上に加えて、経済学部の実践能力や調整能力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進されて、学問領域を超えた学際的な知識の習得が図れたと考えている。具体的な効果については後日、ちょボラ部部員に対してアンケート調査を実施して、これを測定・分析したいと考えている。 |
| 今後の改善内容及び展開 | 　ちょボラ部員が大幅に増員したこともあり、ウォーキングコース開発を目的として、２チームを編成して本事業に取り組んだ。今年度は PDCA サイクルの実践として運営をおこない、ウォーキング参加者に対してアンケート調査を行った。平成３０年３月１１日現在、アンケート調査分析中である。結果・考察をまとめた後で、折尾駅会議室において、折尾駅職員に対して、ちょボラ部員が研究発表を行う予定である。その研究発表をもとに、次回は OODA ループを実践したいと考えている。筆者は、後日、ちょボラ部員に対してアンケート調査を実施して、向上した能力などを測定・分析し、その結果と考察について、論文というかたちで公表したいと考えている。 |




**64　福岡県**

**6/3 [日]**

スタート駅
**JR折尾駅**

## 九州共立大学学生による折尾の町並みを楽しむコース!

■コース距離/約6km　〈スタート受付時間〉8:30～11:00
■所要時間/約2時間　〈ゴール受付時間〉15:00まで

祭　やや アップダウン　NEW!

九州共立大学学生による考案のコースで、近代化産業遺産の堀川運河に接して頂き、活気溢れる学園大通りから九州共立大学内でのレクリエーションや折尾まつりならではの様々な催し事を楽しんで頂くコースです。

**九州共立大学**
大学内で開催されるレクリエーションを体験し、現役選手の案内を聞きながらグラウンドを見学して頂けます。

**折尾まつり**
伝統ある折尾まつりで様々な催し事が開催されます。

スタート 折尾駅(北口) → 堀川沿い → 九州共立大学正門 → 自由が丘会館(レクリエーション) → グラウンド見学 → 九州共立大学東門 → 折尾まつり(10時開始予定) → 折尾駅(北口) ゴール

**おすすめグルメ**
●東筑軒
東筑軒の「かしわめし」は北九州認定の食のブランドです。

**特　典**
●九州共立大学によるちょっぴりプレゼントがございます。(数に限りがございます)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 博多駅 | 7:46発 | 快速 | 8:33着 | 8:38着 | 快速 | 8:14発 | 小倉駅 |
| | 8:33発 | | 9:45着 | 9:43着 | 快速 | 9:22発 | |
| | 9:47発 | 快速 | 10:34着 | 10:46着 | 区快 | 10:22発 | |
| 直方駅 | 8:18発 | | 8:39着 | 8:29着 | | 8:13発 | 若松駅 |
| | 9:35発 | | 9:54着 | 9:29着 | | 9:13発 | |
| | 10:28発 | | 10:48着 | 10:34着 | | 10:19発 | |

折尾駅

※主な列車のみ表示しています。

お問い合わせ　折尾駅 093-691-0024
協力／折尾まつり実行委員会、九州共立大学

2018 年 6 月 3 日（日）: 九州共立大学第一学舎前

# JR 九州ウォーキングのコース開発に関するアンケート

私たちは，現在，九州共立大学学友会ちょボラ部に在籍し，授業または部活動を通して，ボランティア活動をしている学生です。

例年スタッフとして参加している JR 九州ウォーキングを通して，まちおこしについて，関心を持ち，研究を進めております。同時に，堀川まちおこし事業を展開した学生・生徒が充実した生活を過ごせるためのまちづくりにも関心を持ち，これについても研究中です。

私たちは，JR 九州（折尾駅）および協同組合折尾商連と協力して，北九州市八幡西区，特に折尾地区の魅力を伝えたいと考え，今日のコースを開発しましたが，それでも，まだ，折尾地区には私たちの知らない魅力があると考えています。加えて，JR 九州ウォーキング自体の魅力を高めて，参加者の方々に満足してもらいたいと考えています。

そこで，まちおこしに関して，そして，JR 九州ウォーキングコースに関して，参加する方々が，どのような考えをお持ちか，質問させてください。

回答の内容は研究以外の目的に使用することは決してありません。

調査は無記名です。回答の内容が外部にもれることはありません。

ご協力の程，お願いいたします。

## ＜調査結果および質問について＞

調査の結果をお知りになりたい方には，後日，ご報告させていただきます。ご希望の方は，下記の連絡先にお知らせください。

ご質問のある方も下記の連絡先にお問い合わせください。

連絡先：九州共立大学経済学部　梅田研究室
梅田　勝利　（教員）
栗原　啓輔，藤川　功樹，三好　智高　（学生代表）
住　所：〒807-8585
福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8
電　話：093-693-3211（梅田研究室）
月曜から金曜　（10 時から 16 時）
E-mail：umeda@kyukyo-u.ac.jp

九州共立大学学友会ちょボラ部　主催，JR 九州折尾駅　後援

**平成 30 年度　JR 九州ウォーキングのコース開発に関するアンケート調査票**

1.　あなた自身について，おたずねします。あてはまる数字に○をつけてください。

| | |
|---|---|
| ①　性　別 | 1．男性　　2．女性 |
| ②　年　代 | 1．１０代　　2．２０代　　3．３０代<br>4．４０代　　5．５０代　　6．６０代以上 |
| ③　職　業 | 1．会社員　　2．公務員　　3．学生・生徒<br>4．主婦　　5．その他（　　） |
| ④　参加回数 | 1．１回目　　2．２回以上５回未満<br>3．５回以上１０回未満　　4．１０回以上 |
| ⑤　同伴者（複数回答可） | 1．親（子）　　2．夫（妻）　　3．兄弟（姉妹）<br>4．友人　　5．なし　　6．その他（　　） |

2.　九州共立大学内でのレクリエーションに対するお考えについて，おたずねします。
あてはまる数字に○をつけてください。

項目1.　良かったと感じたレクリエーションすべてに，○をつけてください。
1．ちょっとしたクイズ　　2．中国茶体験　　3．ふれあい体験
4．グラウンド見学　　5．その他（　　）

3.　JR 九州ウォーキングのコースに対するお考えについて，おたずねします。あてはまる数字にひとつだけ○をつけてください。

項目2.　ウォーキングのコースの距離として，どのくらいが適当だと思いますか？
1．４キロメートル　　2．５キロメートル　　3．６キロメートル
4．７キロメートル　　5．８キロメートル　　6．その他（　　）

項目3.　ウォーキングのコースに取り入れてほしいものは何ですか？
1．体験型イベント　　2．スタンプラリー　　3．自然とのふれあい
4．文化財見学　　5．飲食体験　　6．その他（　　）

項目4.　ウォーキングのコースを何で知りましたか？
1．ポスター・パンフレット　　2．ホームページ・インターネット
3．同伴者からの誘い　　4．その他（　　）

アンケートは裏面へつづきます

項目5.　JR 九州ウォーキングへの参加について，以下の条件をどの程度重視しますか？

| | 重視しない | あまり重視しない | やや重視する | 重視する |
|---|---|---|---|---|
| ①　ウォーキングコース自体の距離 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②　自宅からコーススタート地点までの距離 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③　よりよい健康状態を目指すこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④　新たな人間関係を築くこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤　良好な景観に触れること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥　歴史・文化に触れること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦　地域のイベントに参加すること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧　地域の特産品を味わうこと | 1 | 2 | 3 | 4 |

項目6.　あなたは，JR 九州ウォーキングというイベントについて，どうお考えですか？
自由に記入してください。

◆　ご協力，ありがとうございました。

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：九州共立大学学友会ちょボラ部、経済学部<br>事業名：第１回　海外ボランティア学生交流プログラム |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 梅田　勝利（ちょボラ部部長、福原学園国際交流委員会委員） |
| | 所　　属 | 経済学部 |
| | 実施担当者 | 栗原 啓輔、中畑 知奈美、ボルドクフ エンフオルギル（モンゴル） |
| | 所　　属 | 経済学部・スポーツ学部　３年、２年 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3211<br>《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》東西大学校（韓国・釜山広域市。福原学園海外協定校）<br>《職・氏名》国際通商物流学部教授・李　美永<br>《電話番号》051-320-1636（李　研究室）<br>《 E-mail 》leemyo@dongseo.ac.kr |
| 事業実施日・回数 | | 平成３１年3月7日（木）～１０日（日）　《計１回》 |
| 実施場所 | | 東西大学校（47011　韓国釜山廣域市沙上區周禮路 47） |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学：経済学部（モンゴル人留学生を含む）・スポーツ学部の学生<br>事業対象者：ちょボラ部<br>参加者人数：８名（顧問１名、参加部員７名） |
| 経　　費 | | なし（部活動費などを使用。別紙のとおり） |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1.　事業目的・内容等<br>　現在、日本では、大学の海外展開として、海外協定校との連携強化（充実）を通じて、多様な方策を講じようとしている段階にある。そこで、今回の本事業では、本学と東西大学校とが協定締結をしていることを活用して、ボランティア活動を通じて、国内外の大学間連携の推進および学生間の交流活発化を図る。そして、これを契機に上述の方策を模索し、提案する。また、グローバル人材育成の一環として実施する。加えて、国境を越えた域学連携プロジェクトについて、釜山広域市内にある大学などと協議する。<br>＊　グローバル人材育成の一環（今回はネゴシエーションスキル向上に力点を置く）<br>…第３次中期経営計画　九州共立大学 No. 8（担当責任者：学生支援部長）に該当<br>＊　海外協定校との連携強化（充実）<br>…第３次中期経営計画　九州共立大学 No. 9（担当責任者：学生支援部長）に該当<br>＊　国内外の大学間連携の推進および学生間の交流活発化<br>…第３次中期経営計画　九州共立大学 No. 13（担当責任者：地域連携推進センター所長）に該当<br>＊　国境を越えた域学連携プロジェクト（今回は韓国企業との産学連携を模索する）<br>…第３次中期経営計画　九州共立大学 No. 14（担当責任者：地域連携推進センター所長）に該当<br><br>2.　実績<br>　本プログラムの最大の特長は東西大学校学生との交流活発化である。３月８日（金）は、釜山港湾公社（BPA）訪問（当日は広報担当者による会社概要説明および釜山港乗船見学。釜山港は２０１７年に世界第６位のコンテナ取扱量）、社会福祉法人　天聖兒童再活院（障害児リハビリテーションセンター）における共同ボランティア（日常生活支援体験活動。当日は施設長と相談の上、清掃や入所者とのコミュニケーション業務を実施）、東西大学校キャンパスツアー、懇親会などが実施され、３月９日（土） |

は、学生同士での１日観光などが実施された。これらを通じて、本学学生からは貴重な経験と友情を得たと聞いている。これらから、交流活発化は上手くいったと考えている。また急きょ、東西大学校（現）国際交流支援室長がソウルへ出張になったことから、今回のプログラムの共同企画者である、李 美永（元）国際交流支援室長と今後の共同研究および共同の学生教育プログラムの開発・実施の可能性について議論した。また、メディア・コミュニケーション学部長、インターナショナル・カレッジ学部長などと面談して、今後の交流のあり方について相談をした。

ちょボラ部副主将の中畑 知奈美さん（渉外・会計担当。経済学部２年）の感想は、次のとおりである。

「３月８日（金）の午前は、釜山港湾公社を訪問しました。ビジネスパーソン対象で、一般の人では乗船できない船に乗ることができました。世界最高レベルの新旧港湾を見学することができ、私だけではなく、みんなが興奮していました。昼食は学生同士が相談して南浦洞で探して摂ることになりました。最初は全員緊張して話せなかったのですが、サムギョプサルを食べながら話をしているうちに、緊張も徐々に解けて、仲良くなることができました。午後には、障害児リハビリテーションセンターへ訪問をして、施設利用者と身振り手振りでコミュニケーションをとりました。言葉が通じなくても気持ちのやり取りはできるのだなと実感しました。その後の東西大学校キャンパスツアーでは、最初にメディア・コミュニケーション学部へ訪問したのですが、とても歓迎してくれてうれしかったです。九州共立大学にはない東西大学校の最先端設備に実際に触れることができ、見学していくうちに、その凄さに圧倒されました。スタジオは、実際にテレビ局と同様に国民や市民へ向けて放送しており、その活動が東西大学校の学生の単位修得にもつながっていると聞いて、とても驚きました。その後の懇親会は、４つの大学の先生方と学生で大いに盛り上がりました。例えば、東西大学校の教員と九州共立大学の学生や、九州共立大学・東西大学校・保健医療経営大学の学生同士といったかたちで交流が深まり、さらに仲良くなることができました。

３月９日（土）は、学生だけで自由行動をしました。午前中に東西大学校の学生が、私たちが宿泊しているホテルまで迎えに来てくれ、釜山の人気観光地や土産物店などへ案内してもらいました。韓国の学生ならではの食事や遊びなどを知ることができて、とても楽しく釜山市内をまわることができました。東西大学校の学生と共に過ごした時間は２日と短い期間でしたが、とても充実した中身の濃い時間だったと思います。夜には、サプライズで私の誕生日を日本人学生みんなにお祝いしていただきました。

そして、今回の訪韓でわたしが１番に感じたことは、ちょボラ部員の団結力や絆が深まったことです。みんなが、ちょボラ部員代表として恥ずかしくないようにしようと、コミュニケーションを十分とりました。最後になりますが、九州共立大学に入学して、ちょボラ部に入部して、多くの仲間ができ、本当に良かったと思っています。今回、釜山を訪れたことによって得ることのできた経験、そして素敵な出会いなど、このような機会を与えていただいたすべての人に感謝したいと思っています。」

３．効果

本学学生に、ボランティア活動を通じて、国内外の大学生とどのようにすれば交流活発化を図ることができるかについて考えさせ、同時に、国外の地域社会との連携や交流を図るための考え方や方法について模索させた。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている、両学部共通の課題探求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力の向上に加えて、経済学部の実践能力や調整能力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進されて、学問領域を超えた学際的な知識の習得が図れたと考えている。具体的な効果については、後日、ちょボラ部員に対してアンケート調査を実施して、これを測定・分析したいと考えている。

| | |
|---|---|
| 今後の改善内容<br>及び展開 | 今回、初めて本プログラムを実施した。交流そのものは、良かったと感じている。東西大学校の李先生から、港湾を対象に、国境を越えた域学連携プロジェクトとして、共同研究および共同の学生教育プログラムの開発をして、韓国政府から補助金をいただき、まずはゼミレベルからスタートして国際交流の進展を図ってはどうかとの提案を受けた（実際に東西大学校は、韓国政府が提供しているプログラムを実施しているとのことである）。この提案について前向きに検討して、取り組みたいと考えている。 |

2019年 2月 8日（金）

# 第1回　海外ボランティア学生交流プログラム　企画書　【確定版】

九州共立大学経済学部教授　梅田　勝利
東西大学校国際通商物流学部教授　李　美永

## 開催要項

1.　日　時：2019（平成31）年3月7日（木）～10日（日）
2.　場　所：東西大学校（本学海外協定校。47011　韓国釜山廣域市沙上區周禮路47）
3.　共　催：九州共立大学経済学部梅田ゼミ・学友会ちょボラ部（ボランティア・サークル），東西大学校国際通商物流学部李ゼミ
4.　目　的：

現在，日本では，大学の海外展開として海外協定校との連携強化（充実）を通じて，多様な方策を講じようとしているところである。そこで，本学と東西大学校とが協定締結をしていることから，ボランティア活動を通じて，国内外の大学間連携の推進および学生間の交流活発化を図ることをきっかけとして，その方策を模索し，提案する。また，グローバル人材育成の一環として実施する。加えて，国境を越えた域学連携プロジェクトについて協議する。

5.　参加者：学生16名以内（内訳：日本12名以内＋韓国4名）＋教員4名
(1)　九州共立大学：梅田ゼミ学生（ちょボラ部員）3名＋ちょボラ部員5名＋梅田勝利
(2)　東西大学校：李　ゼミ学生4名＋李　美永先生
(3)　新潟経営大学：片上ゼミ学生1名＋片上　洋先生
(4)　保健医療経営大学：堺ゼミ学生3名＋堺　貴晴先生
6.　スケジュール：
(1)　3月7日（木）：午後に出国（LJ230　北九州空港16:35発　金海国際空港17:35着），
＊　釜山広域市に到着後，日本の3大学の学生間でボランティア活動の打ち合わせ
(2)　3月8日（金）：午前に①釜山港湾公社訪問（釜山港見学），②ボランティア活動を実施（a.またはb.）。②前または後に昼食。
a.　天聖兒童再活院（障害児リハビリテーションセンター）日常生活支援体験活動
b.　乙淑島生態公園（渡り鳥保護センター）清掃活動
②終了後に東西大学校キャンパスツアー。キャンパスツアー終了後に懇親会を開催。
＊　既に李ゼミの学生がa.を実施していることからa.を優先して実施する。3月8日の活動については，李先生に手配していただくことになった。
(3)　3月9日（土）：釜山広域市文化体験・観光地見学（夕食（17時）まで自由行動）
＊　教員は，釜山広域市内にある大学の教員や韓国企業の役職者等と面談し，国境を越えた域学連携プロジェクトについて協議する。その間，自由行動をする学生は，定期的（11時，13時，15時）に，教員へ連絡をすることとする。
(4)　3月10日（日）：午後に出国（LJ229　金海国際空港14:30発　北九州空港15:30着）
7.　予算（案）：学生（日本）1名あたり¥42,000，教員（日本）1人あたり¥46,000
(1)　旅費交通費（海外旅費）：¥36,000　＊　ジンエアー：往復1人¥21,000，東横INN釜山駅1：1人1室3泊¥15,000（2019年 2月 8日時点）
(2)　旅費交通費（釜山広域市内1日貸切バス代）：学生（日本）1人¥3,000，教員（日本）1人¥4,000）
(3)　懇親会費：学生（日本）1人¥3,000，教員（日本）1人¥6,000

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：NPO 法人　香月・千代スポーツクラブ<br>事業名：香月・千代ジュニアスポーツ体験教室 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 実施担当者 | 花田　道子・梨羽　茂 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3060<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》香月・千代スポーツクラブ<br>《職・氏名》香月・千代スポーツクラブ　陣内会長<br>《電話番号》093-619-0140<br>《 E-mail 》katukitiyo-sc@uma.bbiqjp |
| 事業実施日・回数 | | ５月20日・27日・６月３日・17日・24日・７月１日・８日≪計７回》 |
| 実施場所 | | 香月小学校体育館・グラウンド及び畑キャンプ場 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学教員：２名　九州共立大学学生：15名　九州女子大学学生：20名<br>事業対象者：　15名（香月・千代スポーツクラブスタッフ）<br>参加者人数：　72名（小学生） |
| 経　　費 | | (あ り)　交通費支給 |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>北九州市市民文化スポーツ局スポーツ振興課からの依頼で、「小学校の児童を対象に、遊びの要素を持つ運動やオリンピック種目の体験を通じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う」ことを目的とした事業。<br>2．実績<br>※5月20日の体力測定は、8：30～12：00、7月1日の体力測定は、9：30～12：00、7月8日の食育（ｱｳﾄﾄﾞｱ）は9：30～13：00、それ以外は、10：00～12：00の2時間実施した。<br>本学は、スポーツプログラムの企画・立案及び指導を担当した。<br>3．効果<br>子どものコミュニケーション力を育むジュニアスポーツ体験教室として実施している。子どもたちに必要な能力の一つに、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」がある。しかし、一方で、子どものコミュニケーション力の低下が課題となっている。その理由として、年齢が異なる子ども同士で遊ぶ機会が少なくなったことや、親戚や地域の人など保護者以外の大人と関わる機会が少なくなっていることがあげられる。香月・千代ジュニアスポーツ体験教室では、毎週土曜日、「おはようございます！」と笑顔で子どもたちがやって来る。年齢が異なる子ども同士がグループとなり一緒に活動する中で上級生が下級生の面倒を見たり、一緒に頑張る姿が見受けられる。<br>また、スタッフの学生やNPO 法人香月・千代スポーツクラブのスタッフの方々との関わりから、友達関係をつくったり、維持してくのに必要なコミュニケーションのコツやスキルを学べる場となっている。学生たちにとってもスポーツ指導の現場を体験できる良い機会であり、スポーツ支援を通した指導者育成の場となっている。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 7 回と言う少ない実施回数の中、子どもたちの体力向上を目指したプログラム作りと指導学生の指導スキルの向上を目指し、今後も、総合型スポーツクラブとの連携を深めながら、北九州市の子どもたちの体力の向上及び健康づくりの促進に貢献したい。 |

## ≪平成 30 年度　香月・千代ジュニアスポーツ体験教室≫

九州女子大学　人間科学部　４年　武田　瑞希

今年度の体験教室は、約 50 名の子どもたちに参加していただき、仲間やボランティアの方々、そして保護者の方々の協力のもと、大きな怪我もなく無事に終了することができました。今年は、どのような子どもたちが来てくれるのかとドキドキワクワクしながら迎えた１回目の体力測定から先日のデイキャンプまで、本当にあっという間でした。

毎回の活動では、運動の得意不得意に関係なく、技術や体力を向上させようと一生懸命挑戦する子どもたちの姿に感動しました。そして、いつの間にか「楽しかった」と笑顔で帰っていく子どもたちの姿を思い浮かべながらプログラムを考えることが、私たち学生の毎週の楽しみになっていました。

教師を目指す私にとって、スポーツ教室での子どもたちとの出会いや経験はとても貴重で、多くのことを学ばせていただいた４年間だったと思います。ありがとうございました。最後になりましたが、今回参加してくださったみなさん、子どもたちの送迎や活動を温かく見守ってくださった保護者の皆さん、スポーツクラブのスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。来年もたくさんの子どもたちが参加してくれることを楽しみにしています。

開会式　　準備体操

体力測定（立ち幅跳び）　　（　体前屈　）

○体力向上
　プログラム

○アウトドア
　クッキング

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：九州共立大学・九州女子大学アダプテッド・スポーツ研究部<br>事業名：知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 実施担当者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3060<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》ニコニコ体操教室<br>《職・氏名》九州共立大学スポーツ学部　助教　花田道子<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 事業実施日・回数 | | H30 年５月９日～H31 年２月 23 日　第２・第４土曜日開催月２回《計 15 回》 |
| 実施場所 | | 九州女子大学　錬成館１階ダンスルーム　・玄海少年自然の家「玄海の家」 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学教員：１名<br>九州共立大学学生 10 名・九州女子大学学生：40 名<br>参加者人数：子ども 40 名（きょうだい児含む） |
| 経　　費 | | あ　り　・　（な　し） |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>知的障がい児及び発達障がい児を対象とし、大学の施設及び知的財産を活用して実施している体操教室。この教室は大学生が、障がいを抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。年に１回１泊２日のキャンプを実施している。<br><br>2．実績<br>月２回（土曜日）の体操教室を午前中（10：00～12：00）実施した。<br>福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて１泊２日のキャンプを企画・運営した。<br>岡垣障がい者クリスマス交流会ふれあいタイムを担当<br>大島元気プロジェクトふれあいレクを担当<br>２月：子どもたちとのバス遠足を企画・実施した<br>２月：　毎日新聞に活動の様子を掲載頂く<br><br>3．効果<br>子どもたちは、毎回の体操教室をとても楽しみにしてくれている。学生たちがマンツーマンで子どもたちをサポートすることで、子どもたちはスポーツ活動を楽しむことができる。また、学生たちにとっても発達障がい児に対するスポーツ支援活動をとおして、コミュニケーション能力の改善と向上に寄与していることが考えられる。今年度小学校課程を希望している学生５名が現役で教員採用試験に合格した。その他の学生も、幼児や発達障がい児に関わる仕事に就くことになっている。これから、多様な子どもたちのことを理解してあげられる先生として即戦力で活躍してくれることと思う。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、北九州市の特別支援学校等と連携を深めながら、北九州市の障がい児の余暇支援としてスポーツをとおして、生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。 |

## ≪平成 30 年度ニコニコ体操教室主催：ニコニコキャンプ≫

たくさん遊びました　　おあつまり

みんなが『楽しめる』を目的に行っています(^^♪

海をテーマに遊びました　　昼食のパンにぬる『ジャム』づくりをしました。

最後の挨拶では、人前ではほとんど喋らずにじっと立っていることが多いKでしたが、小さい声で話した時は子供の成長を感じました。色々な体験が出来て良かったです。　保護者感想

## ≪平成 30 年度　ニコニコ体操教室≫

おあつまり

パラシュート

さまざまな運動遊びを取入れ
楽しく身体を動かしています。

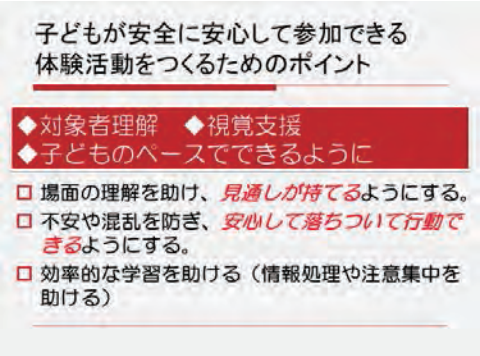
車いすで駆け抜けちゃうぞ～！

みんな大好き

忍者になろう

クリスマス会

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：　福岡県人づくり・県民生活部　私学振興・青少年育成局青少年育成課<br>事業名：　アンビシャス広場 運営スタッフ連絡会 |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 実施担当者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3060<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》福岡県人づくり・県民生活部<br>《職・氏名》担当：安庭<br>《 E-mail 》 |
| 事業実施日・回数 | | 平成 30 年 10 月 22 日（月）13：00～15：00《計　1 回》 |
| 実施場所 | | 吉塚合同庁舎　　〒812-8577　福岡市博多区東公園 7-7 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学教員：1 名<br>九州共立大学学生：0 名<br>参加者人数：40 名 |
| 経　　費 | | (あ り)　講師謝礼及び交通費支給 |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1. 事業目的・内容等<br>アンビシャス広場運営の活性化・充実を図るために、広場運営スタッフに集まっていただき、連絡会を開催する。講師や事例発表者の話を聴き、また、スタッフ同士の意見交換を通して子どもたちのためにできることを考える。<br>2. 実績<br>○ 講演　「子どもが安全に安心して参加できる体験活動」<br>3. 効果<br>○発達障がい児の理解及び安心して活動に参加できる支援方法を学ぶ。<br>○障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツへの関心が高まる。<br>4. 成果<br>◇障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツに携わる人が増える。<br>◇地域スポーツ指導者の資質向上による地域スポーツを支える人材の養成。<br>  <br> |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、誰もが、いつでも、どこでもできるスポーツ活動の提供ができ、障がいを持っていても一緒に楽しむことができる活動ができる指導者の養成に貢献し、今後も市町村生涯スポーツ担当者の資質向上に向けた学習機会や情報の提供を行いたい。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 主催・事業名 | | 主　催：北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎<br>事業名：北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎研修　地域ふれあいコース |
| 九州共立大学 | 事業責任者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 実施担当者 | 花田　道子 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| | 連　絡　先 | 《電話番号》093-693-3060<br>《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp |
| 連携機関 | 機　関　名<br>責　任　者<br>連　絡　先 | 《機 関 名》社会福祉法人北九州市社会福祉協議会<br>北九州シニアネットワークアカデミー穴生学舎事務課<br>《職・氏名》北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎　所長　日野　俊彦<br>《電話番号》093-645-6688<br>《 E-mail 》anoo02@kitaq-shakyo.or.jp |
| 事業実施日・回数 | | ４月19日・　月　日・　月　日・　月　日　　《計　1　回》 |
| 実施場所 | | 北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎　２階第２研修室 |
| 事業対象者<br>参 加 人 数 | | 九州共立大学教員：１名<br>九州女子大学学生：１名（アダプテッド・スポーツ研究部）<br>参加者人数：　24名 |
| 経　　費 | | (あ　り)　北九州市職員研修所の基準により謝金。 |
| 事業内容<br>実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>北九州市では、高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進を目的に年長者研修大学校を設置し、各種講座を実施している。<br><br>2．実績<br>地域ふれあいコースの24名に対し、講義のテーマの『始めまして』仲間づくり～学びの環境づくり」を行った。<br><br>3．効果<br>はじめての場所に参加するとき「どんな人が来てるのかな」「ついて行けるかな」などドキドキする。そんなドキドキをあっと言う間に解消できるような仲間作りの手法を体験してみることを目的に、自分が自分らしく表現できるそんな環境づくり、仲間づくりを行った。<br>学びを通じた、北九州年長者の健康づくり・生きがいづくりに貢献できた。<br>地元北九州市の年長者大学校穴生学舎との連携が促進された。さらに、本学の地域貢献に努めたい。 |
| 今後の改善内容<br>及び展開 | | 学生をアシスタントとして参加させ、レクリエーションを実際に提供した。また、学生が一緒に活動することで参加者のみなさんにとても喜んで頂くことができた。<br>今後も、北九州市年長者大学校穴生学舎との連携を深めながら、北九州市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。 |

# 九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

| | | |
|---|---|---|
| 年　　度 | | 30年度 |
| 事業名 | | 北九州市民カレッジ「大学連携リレー講座」 |
| 九州共立大学 | 担　当　者 | 森　川　壽　人 |
| | 所　　属 | スポーツ学部 |
| 連携機関 | 機　関　名 | 《機 関 名》北九州市立生涯学習総合センター |
| | 責　任　者 | 《職・氏名》所長・岩渕英司 |
| 事業実施日・回数 | | 平成31年1月15日　　《計　1　回》 |
| 実施場所 | | 北九州市立生涯学習総合センター |
| 事業対象者<br>参加人数 | | 九州共立大学　学生：経済学部　　0名、スポーツ学部　0名　計　　0名：<br>事業対象者：北九州市民<br>参加者人数：70名 |
| 経　　費 | | あ　り　・（な　し） |
| 事業目的・内容等及び実績及び効果 | | 1．事業目的・内容等<br>北九州市民カレッジの事業の一つとして北九州市立生涯学習総合センターと連携した大学連携リレー講座「人生100年時代の対処法～万一のとき、あなたは何ができますか？」の第１回を担当した。テーマは「人生100年を生き抜くためのからだづくり」である。内容は、華麗に伴う体力の低下からくるQOLの低下を遅延させるための方法について講義と実技を行なった。<br><br>2．実績<br>定員30名に対して70名以上が参加者した。<br>当初の予定人数は30名だったので、いろいろなアクティビティを用意していたが、人数が２倍以上いて活動できるスペースがなかったため、急遽立位と椅座位でおこなえるものに変更して実技を行なった。<br><br>3．効果<br>みなさん真剣な眼差しで講義を受けていた。実技では笑いが出たり、継続するためにはどうしたら良いかなどの質問をしてくるなどの質問が出たりして、活気に満ちた和やかな雰囲気で講義をすることができた。また写真入りの地呪儀解説書を作成して渡したことも良かったと思われる。 |
| 今後の改善内容及び展開 | | 実技をする場合は人数に見合った場所の確保か、人数制限をする必要を感じた。<br>体力の維持は継続することが大事であることを伝えているので、今後の参加者の運動実施に期待したい。 |

# 平成30年度資格取得支援プログラム講座別受講者数集計表（延べ数）

平成31年3月31日現在

| 講　座　名 | 講座期間 | 合計 | 九州共立大学 | | | | | 九州女子大学 | | | | | 九州女子短期大学 | | | 教職員 | 卒業生 | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 | 1年 | 2年 | 合計 | | | |
| (教員)基礎力養成講座A+実践力養成講座B | 10/16～H31.1/18<br>H31.2/26～5/24 | 23 | | | 14 | | 14 | | | 9 | | 9 | | | | | | |
| 公務員(公安職)講座 | 6/8～H31.9/10 | 20 | | | 17 | 2 | 19 | | | | 1 | 1 | | | | | | |
| 公務員(公安職)講座　再受講 | 6/8～H31.9/10 | 7 | | | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | |
| 公務員(公安職)講座　A講座 | 6/8～H31.3/19 | 5 | | 4 | 1 | | 5 | | | | | | | | | | | |
| 公務員(行政職)入門講座 | 10/16～12/21 | 12 | | 8 | | | 8 | 4 | | | | 4 | | | | | | |
| 公務員(行政職)講座 | 5/29～H31.5/31 | 23 | | | 19 | | 19 | | | 4 | | 4 | | | | | | |
| 旅行管理者講座(国内合格コース) | 5/11～8/31 | 2 | 1 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 旅行管理者講座(国内合格コース)　再受講 | 5/11～8/31 | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 旅行管理者講座(総合・国内W合格コース) | 5/11～10/5 | 25 | 19 | 3 | 2 | | 24 | | 1 | | | 1 | | | | | | |
| 旅行管理者講座(総合・国内W再受講) | 5/11～10/5 | 8 | | 3 | 5 | | 8 | | | | | | | | | | | |
| 医療事務講座(メディカルクラーク) | 10/2～11/27 | 5 | | | 4 | | 4 | | | | 1 | 1 | | | | | | |
| 合計 | | 131 | 20 | 19 | 70 | 2 | 111 | 4 | 1 | 13 | 2 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

# 平成30年度公開講座実施報告

平成30年度に地域連携推進センターで開講された講座、個別専門講座6講座、市民講師講座2講座の合計8講座でした。各講座受講者の延べ人数は2,397名、受講者数は253名でした。

## 【公開講座】

平成31年3月31日現在

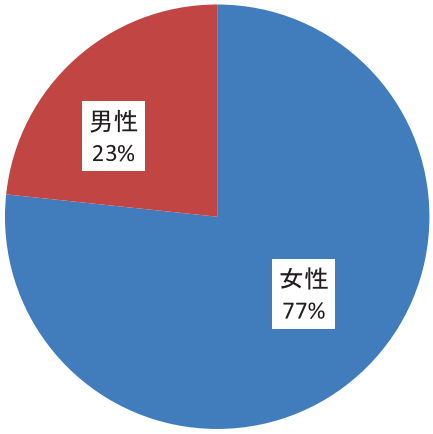
| コース | NO | 講　座　名 | 実施時期・回数 | 受講生数 男 | 女 | 計 | 担　当　講　師 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 語学 | 1 | パーカー先生と楽しく英会話 | 5/8～7/24　毎週火曜日<br>11:00～12:30　12回 | 3 | 9 | 12 | 九州共立大学 非常勤講師<br>パーカー・アントニー・ジョン |
| | | | 10/2～H31. 1/8　毎週火曜日<br>11:00～12:30　12回 | 3 | 15 | 18 | |
| 文学 | 2 | 『源氏物語』を読む | 5/9～7/25　指定水曜日<br>10:50～12:20　9回 | 3 | 8 | 11 | 元九州共立大学<br>元九州女子大学 教授<br>武藤　昭廣 |
| | | | 10/10～H31. 1/23　毎週水曜日<br>10:50～12:20 14回（最終日3月振替） | 3 | 8 | 11 | |
| | 3 | 『源氏物語』を語る会 | 4/13～8/3　毎週金曜日<br>13:05～14:35　10回 | 2 | 10 | 12 | 九州女子大学 教授<br>荻原　桂子 |
| | | | 10/5～H31.1/25　毎週金曜日<br>13:05～14:35　10回 | 1 | 9 | 10 | |
| 芸術 | 3 | 書道講座 | 5/12～7/28　指定金曜日<br>13:00～14:30　10回 | 2 | 13 | 15 | 九州女子大学 准教授<br>古木　誠彦 |
| | | | 10/6～H30. 1/26　指定金曜日<br>13:00～14:30　12回 | 2 | 14 | 16 | |
| | 4 | 漢字のはなし | 5/12～7/28　指定金曜日<br>10:30～12:00　3回 | 4 | 9 | 13 | 九州女子大学 准教授<br>古木　誠彦 |
| | | | 10/6～H30. 1/26　指定金曜日<br>10:30～12:00　4回 | 3 | 8 | 11 | |
| | 5 | 楽しく書く隷書 | 5/10～7/26　指定水曜日<br>10:30～12:00　12回 | 3 | 10 | 13 | 九州女子大学 准教授<br>大迫　正一 |
| | | | 10/4～H30. 1/17　指定水曜日<br>10:30～12:00　12回 | 3 | 12 | 15 | |
| スポーツ | 6 | 「健康スポーツ吹矢」 | 5/6～8/5　指定土曜日<br>10:00～11:30　7回 | 8 | 7 | 15 | 九州共立大学 名誉教授<br>信田　よしの |
| | | | 5/6～8/5　指定土曜日<br>10:00～11:30　7回 | 7 | 10 | 17 | |
| | | | 10/7～H30. 1/20　指定土曜日<br>10:00～11:30　8回 | 5 | 8 | 13 | |
| “公開講座”　計 | | | | 52 | 150 | 202 | |

## 【市民講師講座】

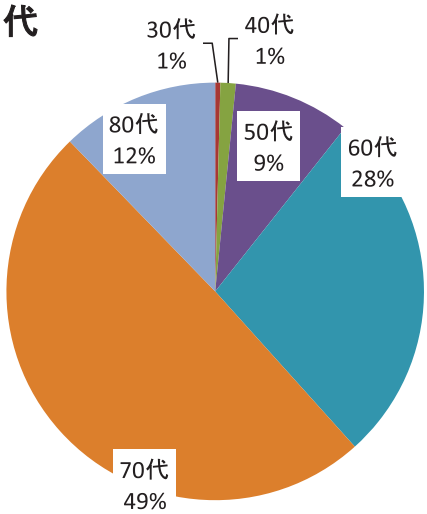
| NO | 講　座　名 | 実施時期・回数 | 受講生数 男 | 女 | 計 | 担　当　講　師 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 歌う喜び「世界の名曲」 | 5/9～7/25　第2・4水曜日<br>13:30～15:00　6回 | 1 | 12 | 13 | 講師<br>森　波子（ピアノ 八代 眞知子） |
| | | 10/10～H31. 1/23　第2・4水曜日<br>13:30～15:00　7回 | 2 | 18 | 20 | 講師<br>八代 眞知子 |
| 2 | 美しい韓国語 | 5/8～7/24　火曜日<br>10:00～11:30　12回 | 2 | 8 | 10 | 講師<br>朴　淑子 |
| | | 10/9～H31. 1/29　火曜日<br>10:00～11:30　15回 | 2 | 6 | 8 | |
| “市民講師講座”　計 | | | 7 | 44 | 51 | |
| 合　計 | | | 59 | 194 | 253 | |

## *受講生状況

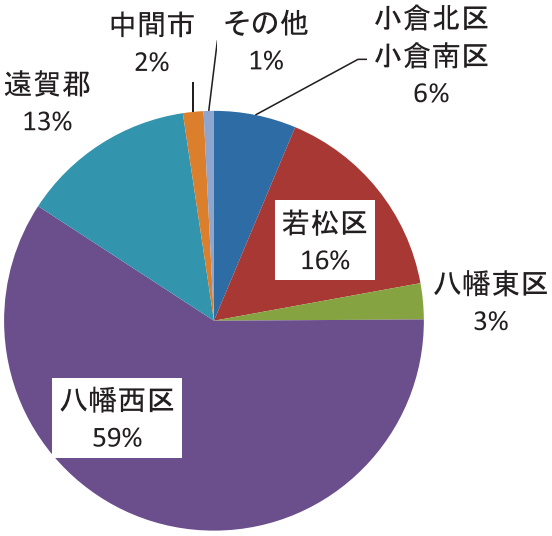
### 性　別




### 年　代




### 居住地




## 公開講座終了アンケート結果

- やっとリラックスして講座を受けることが出来るようになり、楽しく学びを続けたいと思います。
- 皆さん親切で楽しかったので、また参加したいと思いました。
- もっと話せるように努力をしたいと思いました。
- 年16～20回は開講してほしい。
- ピアノの先生を増やして欲しい。
- とても楽しく受講させていただきました。
- 漢字が理論的に出来ていることに驚いた。
- 漢字を勉強することは、大変貴重な経験でした。
- 受講生と講師のレベルが高くて楽しかった。
- 来年も開講を望みます。
- 楽しかったけど、難しかった。
- 毎回、非常に楽しんでいます。資料もたくさんいただき、興味がどんどん深まっています。
- 先生のお話がとても面白かったです。源氏物語の奥の深さを知ることが出来ました。来期も期待しています。
- 万葉集の講座を希望します。
- 先生の健康が続く限り、源氏物語終章まで学びたい。
- 駐車場や館内設備が良くて使いやすい。
- 源氏物語原文が分るようになりました。
- 良い先生・友人・センターの中で長年受講できる事に感謝しています。

## 九州共立大学スポーツ救急法講座

◎九州共立大学と学生トレーナー（CARE）の協力で、スポーツ現場での救急法の基礎知識について無料講座を開講しました。

《対　　象》　スポーツ指導者、教員、保護者、スポーツ現場での救急法について興味関心のある方
《参 加 費》　無料
《後　　援》　北九州市・北九州市体育協会
《講　　師》　九州共立大学　教授　・　地域連携推進センター　所長　篠原　純司
《専門分野》　スポーツ障害・外傷、アスレティックリハビリテーション
《資　　格》　米国BOC公認アスレティックトレーナー（NATA-ATC)など

### ◆「スポーツ現場での熱中症 ー予防と救急処置ー」◆

熱中症とはなにか、スポーツ現場における熱中症の予防対策、熱中症が起きた時の救急処置などについて学びます。

《日　　時》　平成30年6月16日（土）　10:00～12:00
《場　　所》　九州共立大学内　スポーツ学部B館　204号室
《参加者数》　55名

## 福原学園キャンパス市民ボランティア活動報告

本学では、学習の成果を発揮し、自らを育てる場として、また生きがいづくりのお手伝いの場として市民の方々に大学のキャンパスを提供しています。これが「キャンパス市民ボランティア制度」です。

### 【茶道ボランティア】

活動内容は、留学生に「茶道体験」や「浴衣の着付指導」を行い、日本文化の伝承に努めています。。お点前披露、お抹茶のいただき方の指導なども行っています。平成30年度の登録は14名でした。

### 【折り紙ボランティア】

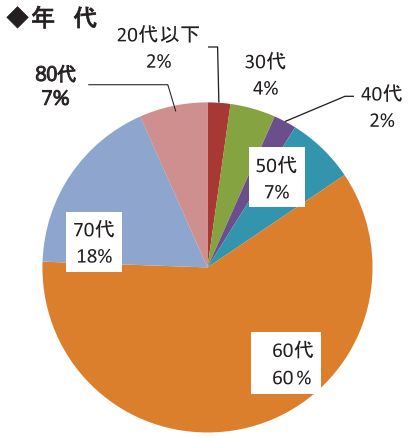
おもに、第3金曜日の13:00から14:30に定例会をおこなっています。
定例会では、折り紙講師の指導のもと、難しい技術にもチャレンジしています。平成30年度の登録は14名でした。

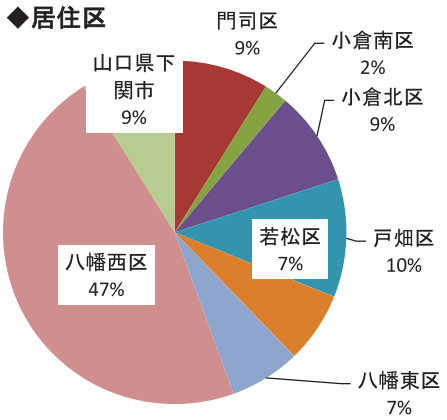
| 開　催　日 | 活　　動　　内　　容 |
|---|---|
| 平成30年4月20日 | 第1回定例会 |
| 平成30年5月18日 | 第2回定例会 |
| 平成30年6月15日 | 第3回定例会 |
| 平成30年7月20日 | 第4回定例会 |
| 平成30年9月21日 | 第5回定例会 |
| 平成30年11月16日 | 第6回定例会 |
| 平成30年12月21日 | 第7回定例会 |
| 平成31年2月15日 | 第8回定例会 |
| 平成31年3月15日 | 第9回定例会 |

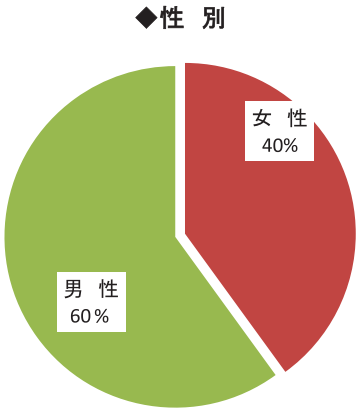
北九州市教育委員会と連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図るために行う講座です。平成30年度は、45名（男27名・女18名）の受講生数でした。

| 講　座　名 | 日時・回数・場所 | 受講生数 | 担当講師 |
|---|---|---|---|
| おもしろ数学！（前編） | 5/21～7/30　月曜日<br>13:00～15:00　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 11 | 元九州共立大学<br>教　授　　江口　弘文 |
| おもしろ数学！（後編） | 11/12～H31. 2/4　月曜日<br>13:00～15:00　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 9 | |
| 旅のフランス語<br>～フランスを旅するために～（前期） | 6/1～8/3　金曜日<br>14:30～16:30　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 2 | 九州共立大学<br>名誉教授　　山本　和道 |
| 旅のフランス語<br>～フランスを旅するために～（後期） | 11/2～H31.1/25　金曜日<br>14:30～16:30　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 3 | |
| 理科に関するものづくり入門講座（その） | 6/3～8/6　指定土曜日<br>10:30～12:30　6回<br>自由ケ丘会館3階 | 3 | 九州共立大学<br>名誉教授　　山口　静夫 |
| 理科に関するものづくり入門講座（その） | 6/3～8/5　指定土曜日<br>10:30～12:30　5回<br>自由ケ丘会館3階 | 4 | |
| 「星の王子様」を皆で読み、語り合う！（前期） | 6/4～8/20 金曜日<br>14:00～16:00　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 4 | 九州共立大学<br>名誉教授　　山本　和道 |
| 「星の王子様」を皆で読み、語り合う！（後期） | 11/12～H31. 2/4 金曜日<br>15:00～17:00　10回<br>自由ケ丘会館3階 | 2 | |
| 水泳愛好者のための水泳教室 | 10/22～H31. 1/21　月曜日<br>14:00～16:00　10回<br>福原学園屋内公認プール | 7 | 九州共立大学<br>講　師　　森　誠護 |

＊受講生状況＊




＊受講生アンケート＊

・自分で本やＴＶの教養講座の内容を参考に、これまで自己流で泳いでいましたが、他者の意見（助言）やＶＴＲで客観的に見直すことができました。クロールのバタ足や飛び込みの２つを受講しましたが、バタ足はとても苦手な動きでしたし、飛び込みは、小学生以来４３年ぶりに体験（それも何度も）でき、貴重な機会をもつことができ、感謝しています。親切なご指導ありがとうございました。
・今回も計算の得意な方、熱心に質問される方、最年長でありながら謙虚な方などがいらして、刺激になりました。微分の接線の傾きで勘違いしていたところがわかった。いつも先生の穏やかなご指導に感謝いたします。

・作者の体験から書かれていることを知り、作者の人生について学ぶことで、より深く「星の王子様」を読むことができました。毎回、感想を語り合うことで、自分の思いをまとめることができ、成長できた講座でした。受講生の少ない状態でも講師の先生が熱心に講義して下さり、心から感謝しています
・電子工作は、難しく感じていましたが、入門として大変わかりやすかったです。受講されている高齢のご先輩方にも先生の親切なご指導でみなさん満足されていたようです。

## 北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ

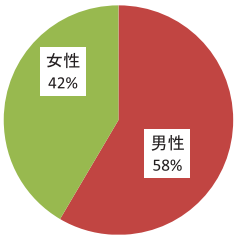
穴生学舎では、高齢者の生きがい対策の一環として、「生きがい・健康・ふれあい」、を基本理念に自立した高齢期の生き方を提唱しています。また高齢者の活力を地域に還元する仕組みづくりとして、ボランティア活動を通じて、高齢者の社会参加を促進する研修や事業等の推進をしています。
本年も、増大かつ多様化し、ますます高度化する学習ニーズに応えるため、本大学のキャンパスを利用した「シニアサマーカレッジ」を開講しました。

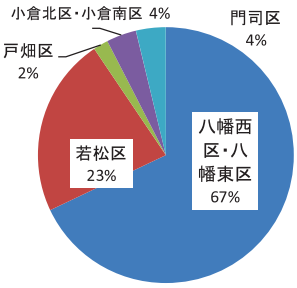
### テーマ「おもしろ社会学」～これからの人生に新たなチカラを～

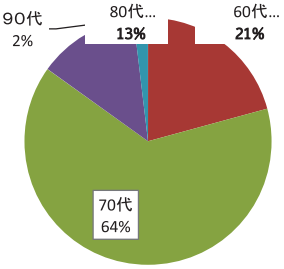
《期　　間》 平成30年7月20日（金）～9月28日（金）　　《回　　数》 10回
《場　　所》 九州共立大学内　自由ケ丘会館3階　　《受講者数》 53名

| 開講日 | 時　間 | 講　座　内　容 | 担　当　講　師 |
|---|---|---|---|
| 7/20（金） | 10:00～10:20 | 開校式・オリエンテーション | 北九州市年長者大学校 穴生学舎職員 |
| | 13:05～14:35 | まちづくりと多世代交流 | 九州共立大学 教授 梅田　勝利 |
| 7/27（金） | 10:00～12:00 | 生き生きと楽しく毎日を創りましょう！！ | 九州女子短期大学 特任教授 青山　優子 |
| | 13:05～14:35 | 幕末私塾論 | 自由ケ丘高等学校 教諭 三浦　明彦 |
| 8/3（金） | 10:00～12:00 | スポーツで地域を作る～コンパクトシティ・サードプレイス・身体の縁～ | 九州共立大学 准教授 小丸　超 |
| | 13:05～14:35 | 生物多様性を学ぶ～身近な希少生物と外来生物～ | 九州共立大学 教授 成富　勝 |
| 8/10（金） | 9:00～19:00 | 校外研修 | 自由ケ丘高等学校 教諭 三浦　明彦 |
| 8/24（金） | 10:00～12:00 | 身の回りのルールでアソぼう～情報科学の魅力にちょっとだけふれてみましょう～ | 九州共立大学 教授 三原　徹司 |
| | 13:05～14:35 | あなたもスポーツ雑学博士！～東京オリンピックをより面白く観るために～ | 九州共立大学 教授 山田　明 |
| 8/31（金） | 10:00～12:00 | 遠藤周作のキリシタン小説－『沈黙』を中心に－ | 九州共立大学 講師 古浦　修子 |
| | 13:05～14:35 | いざという時のために、知っておきたい救急法の基礎知識 | 九州共立大学 教授 篠原　純司 |
| 9/7（金） | 10:00～12:00 | 心も身体も生き生きレクリエーション | 九州共立大学 教授 成富　勝 |
| | 13:05～14:35 | ジョギング　それとも　ウォーキング　どちらが効果的？～皆さんにあった運動を探しましょう～ | 九州共立大学 講師 松﨑　守利 |
| 9/14（金） | 10:00～12:00 | 目からウロコの転倒予防メソッドについて | 九州共立大学 特別客員准教授 森部　昌広 |
| | 13:05～14:35 | 英語でつながる社会の輪 | 九州共立大学 講師 大塚　知昇 |
| 9/21（金） | 10:00～12:00 | 小型二足歩行ロボットのしくみ | 九州共立大学 講師 水井　雅彦 |
| | 13:05～14:35 | スクエアステップでいきいき生活 | 九州共立大学 教授 森川　壽人 |
| 9/28（金） | 10:00～12:00 | 人生の轍（わだち）を振り返る | 九州共立大学 事務局長 田中　邦博 |
| | 12:45～13:30 | 茶話会・閉講式 | 寺田　幸司 穴生学舎職員 |

※受講者状況



# 第16回 ボランティアフェスタ in 八幡西

きずな 絆 今日の一歩が 未来をつくる

入場無料

## 平成31年 2月24日(日)

## 11:30～15:30

**会場：九州共立大学 自由ヶ丘会館4階**

濤懸はまゆう太鼓

イマ☆タカDanceFamily

オープニング

仰星学園高校 よさこいソーラン部

ボランティアの
情報がいっぱい
活動発表・展示コーナー
体験コーナー
折り紙など

ほらんてぃあ川柳 表彰式

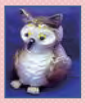
健康マイレージ

福引き

販売コーナー 11：30～ 売り切れ次第終了します

### 北九州フレンド

障害者による
手づくりの陶器
コップ
ランプシェードなど



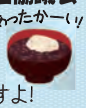
### インクルハチ代

陶器
普段使いのお茶碗や、
おしゃれなアロマディフューザ

### 赤坂地区社会福祉協議会

あったかーい!

芋ぜんざい
ごま団子
手作り品もありますよ!



### 八幡西区ボランティア連絡協議会

美味しいコーヒーで
ほっとひといき!
1杯　100円

### 北九州第二あゆみ通所施設

手づくり作品がいっぱい
アクセサリー
コサージュ
プチ袋など

### 太陽パン

あんぱん
メロンパン
クッキーなど

### My夢

クッキー・パウンドケーキ
ビスコッティー、マドレーヌ
コロッケ・ちらし寿司
手作り味噌など

### 北九州市八幡西区 食生活改善推進員協議会

手づくり「ごまクッキー」
販売します

**九州共立大学**
北九州市八幡西区自由ヶ丘1－8
TEL(093)693-3255
地域連携推進センター

＊交通アクセス＊
◇JR折尾駅～九州共立大学まで◇
●徒歩　15分
●北九州市営バス
7分(浅川経由のバスは、いずれも可)
九州共立大学前下車
●タクシー 5分
●自家用車
大学内の駐車場が無料で利用できます。

主催：ボランティアフェスタ in 八幡西実行委員会　後援：北九州市
問合せ先：八幡西区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター TEL642－0407

# 平成30年度　地域連携推進センターの業務成果

| 月 | 日 | 曜日 | 地域連携推進センター運営委員会･地域連携協議会・地域連携推進事業評価委員会の開催等と協定・覚書の締結 |
|---|---|---|---|
| 5 | 2 | 水 | 第１回地域連携推進センター運営委員会 |
| 6 | 6 | 水 | 第２回地域連携推進センター運営委員会 |
| 7 | 4 | 水 | 第３回地域連携推進センター運営委員会 |
| | 10 | 火 | 大和証券株式会社と協定締結「寄付講座の設置に関する協定」 |
| 8 | 31 | 金 | 芦屋町と協定締結「芦屋町と九州共立大学との包括的地域連携に関する協定」 |
| 9 | 14 | 金 | 第１回地域連携協議会 |
| | 19 | 水 | 第４回地域連携推進センター運営委員会 |
| 10 | 24 | 水 | 第５回地域連携推進センター運営委員会 |
| 11 | 28 | 水 | 第６回地域連携推進センター運営委員会 |
| 12 | 14 | 金 | 遠賀信用金庫と協定締結「包括的地域連携に関する協定」 |
| 1 | 23 | 水 | 第７回地域連携推進センター運営委員会 |
| 2 | 20 | 水 | 第８回地域連携推進センター運営委員会 |
| 3 | 1 | 金 | 第２回地域連携協議会 |
| | 22 | 金 | 地域連携推進事業評価委員会 |
| | | | 教育懇談会 |

芦屋町

大和証券

遠賀信用金庫

九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

平成 30 年度　九州共立大学　地域連携推進センター 報告書
発行　令和 元 年 6 月

学校法人福原学園

九州共立大学　地域連携推進センター

〒807-8585　北九州市八幡西区自由ケ丘 1-8
TEL＆FAX　093-693-3255　　E-mail　renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp